

ガールズ講座&「めぐカフェ」就労体験  
修了者追跡調査

報 告 書

2014 年 3 月

(公財) 横浜市男女共同参画推進協会

# Contents

1	調査の目的	.....	P3
2	アンケート調査	.....	P3
	(1) 調査の概要	P3	
	調査対象／調査方法／調査期間／回収状況／監修		
	(2) 調査結果	P5	
3	調査結果の分析	.....	P34
	付 調査票		
	募集ちらし		

## 【本件連絡先】

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会  
事業企画課

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町 435-1

電 話 045-862-5141

FAX 045-862-3101

## 1 調査の目的

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会では、2008 年度に若年女性無業者の自立支援に向けた生活状況調査を実施し、その結果をもとに、2009 年 4 月から、働きづらさを抱える若いシングル女性（“ガールズ”）を対象にした「ガールズ編 パソコン+しごと準備講座（以下、ガールズ講座）」という自立・就業支援事業を実施してきた\*。また、2010 年 11 月には、主にガールズ講座修了生が就労体験をできる場として、男女共同参画センター横浜南に軽食を提供する喫茶コーナー「めぐカフェ」を立ち上げ、実習生を受け入れてきた。

2013 年度は、これらのガールズ支援事業を開始して 5 年目を迎える年にあたる。これまで取り組んできた事業の有効性を検証するとともに、修了生のその後の進路、状況の変化、現在の就労状況等をつかみ、今後の事業に役立てていくため、修了生を対象とした追跡調査を実施した。

## 2 アンケート調査

### （1）調査の概要

#### ①調査対象

ガールズ講座第 1 期(2009 年 6～7 月)～第 8 期(2012 年 10～11 月)修了者 157 人  
めぐカフェ就労体験修了者のうちガールズ講座を受講していない者 6 人  
合計 163 人

#### ②調査方法

対象者に調査票を郵送し、郵送にて回答を得た。なお、調査票の郵送に関して、特定非営利活動法人全国女性会館協議会より助成を受けた。

#### ③調査期間

2013 年 8 月～9 月

#### ④回収状況

回収数：62 通

回収率：39.7%

※対象者 163 人中、調査票不達者数（7 人）を除く 156 人を母数とする回収率。

---

\* 2012 年度よりパソコン講座は選択制等とし、「ガールズ編 しごと準備講座」に変更した。

⑤監修

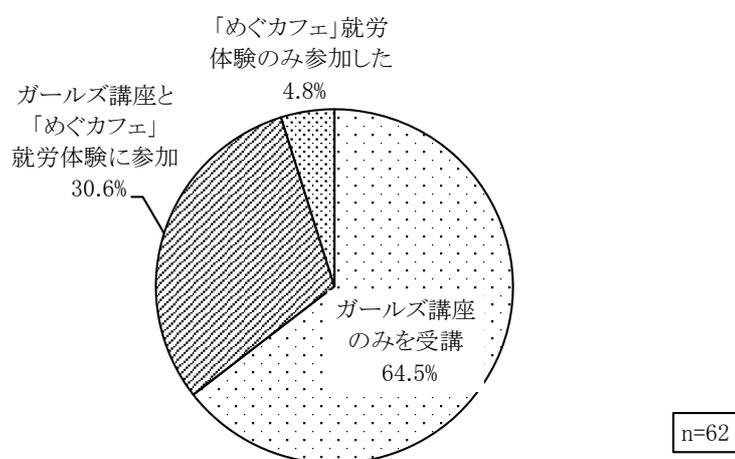
杉田真衣氏（金沢大学人間社会学域学校教育学類准教授）

## (2) 調査結果

### Q1 ガールズ支援事業のうち、どの事業に参加しましたか。

「ガールズ講座のみを受講」が40人で64.5%、「ガールズ講座と『めぐカフェ』就労体験に参加」が19人で30.6%となっており、ガールズ講座参加者は全体の95.1%となっている。「めぐカフェ」就労体験のみの参加者は3人で4.8%となっており、「めぐカフェ」就労体験参加者は全体の35.4%だった。

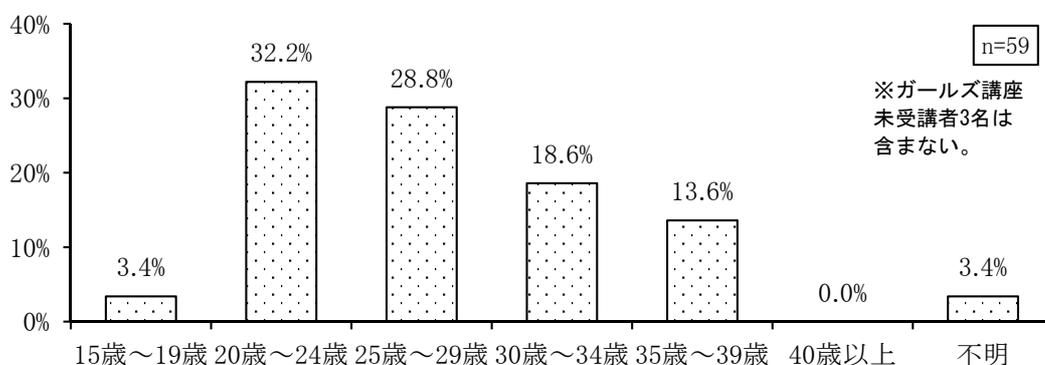
図表 1：事業参加状況



### Q2 ガールズ講座を受講した時、何歳でしたか。

受講時の年齢については、「20歳～24歳」が32.2%、「25歳～29歳」が28.8%、「30歳～34歳」が18.6%となっている。平均受講年齢は27.5歳である。

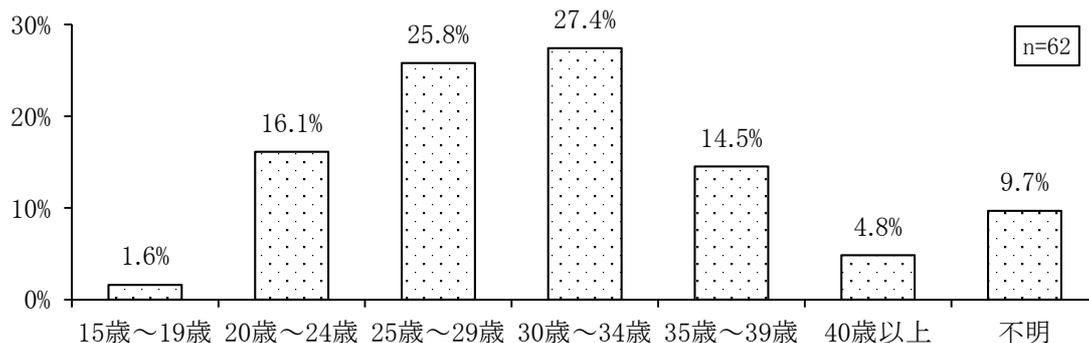
図表 2：受講年齢



**Q3 いま、何歳でいらっしゃいますか。(2013年8月1日現在)**

現在の年齢については「30歳～34歳」が27.4%、「25歳～29歳」が25.8%、「20歳～24歳」が16.1%となっている。現在の平均年齢は、30.0歳である。

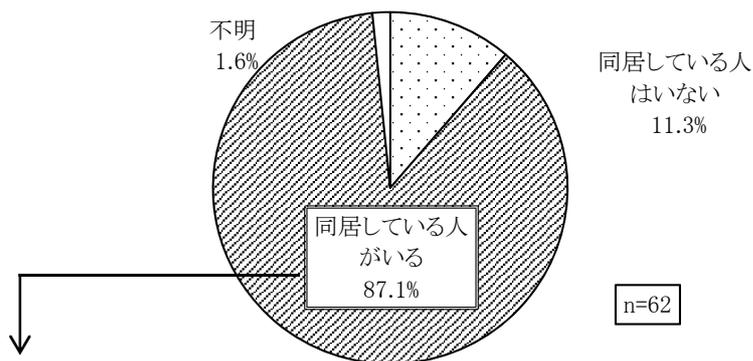
**図表 3：現在の年齢**



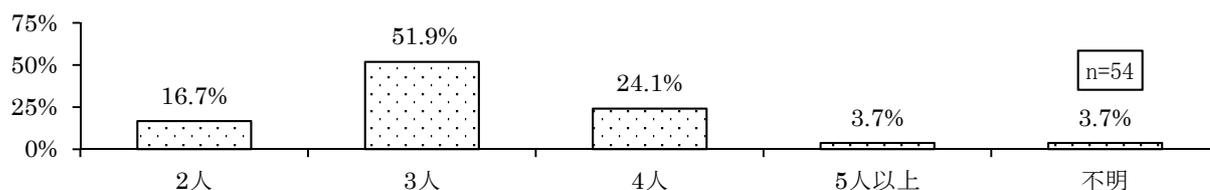
**Q4 同居している人は何人ですか。**

同居の有無は、「同居している人はいない」が11.3%、「同居している人がいる」が87.1%となっている。また同居の人数については、「3人」が51.9%、「4人」が24.1%、「2人」が16.7%となっている。

**図表 4：同居の有無**



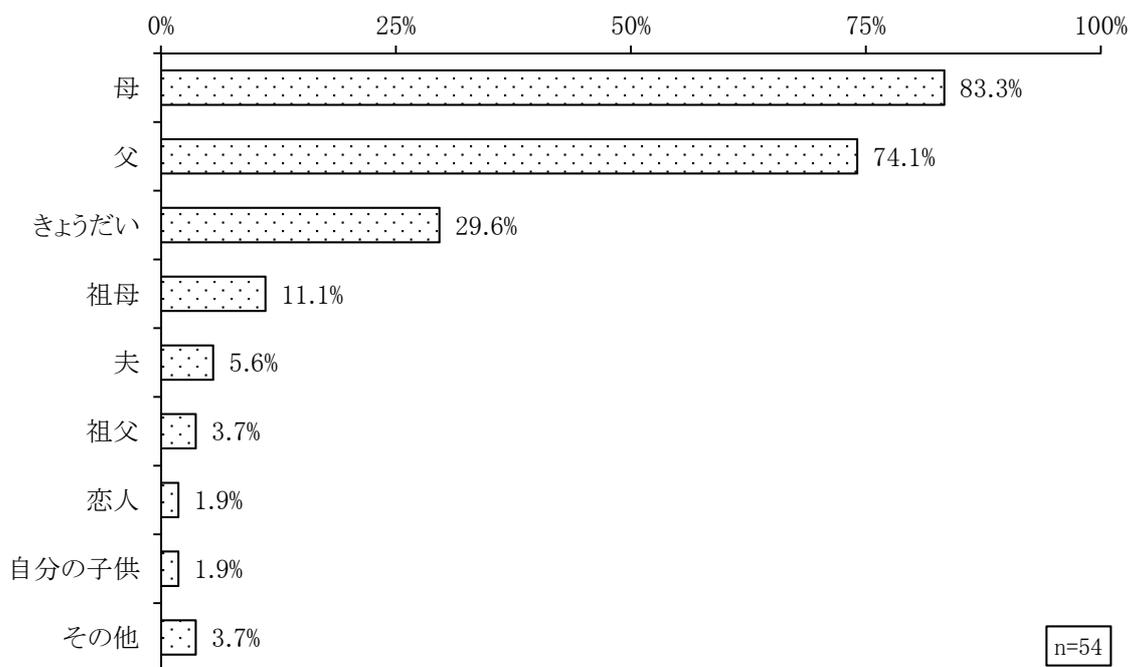
**図表 5：同居の人数（回答者を含む）**



### Q5 現在、同居している方はどなたですか。(複数回答)

現在の同居の状況については、「母」が83.3%、「父」が74.1%、「きょうだい」が29.6%となっている。

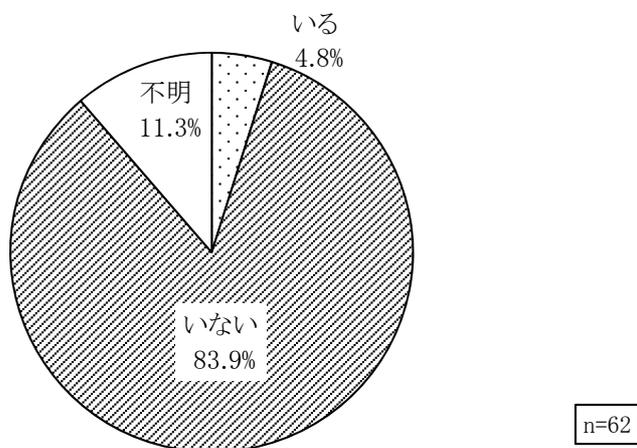
図表 6：現在の同居の状況



### Q6 現在、あなたが介護や世話をしている高齢者、障がい児・者、病児・者等が(同居・別居問わず)ご家族等にいらっしゃいますか。

現在の介護や世話の状況については、「いる」が4.8%、「いない」が83.9%となっている。

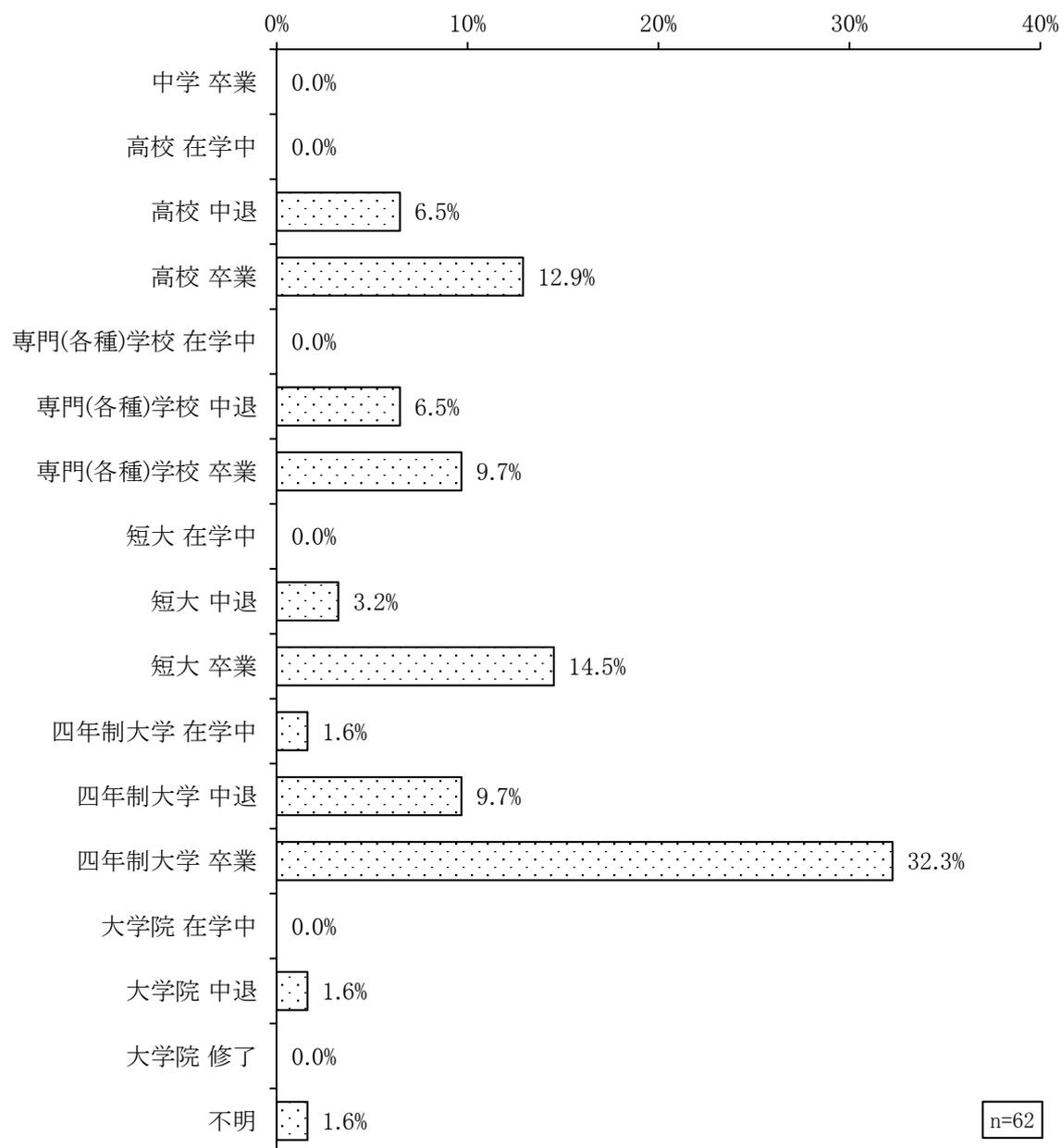
図表 7：介護や世話の状況



### Q7 最終学歴をおたずねします。

最終学歴については、「四年制大学卒業」が32.3%、「短大卒業」が14.5%、「高校卒業」が12.9%となっている。一方、「高校中退」、「専門（各種）学校中退」等の、学校中退者の数は17人にのぼり、27.4%であった。

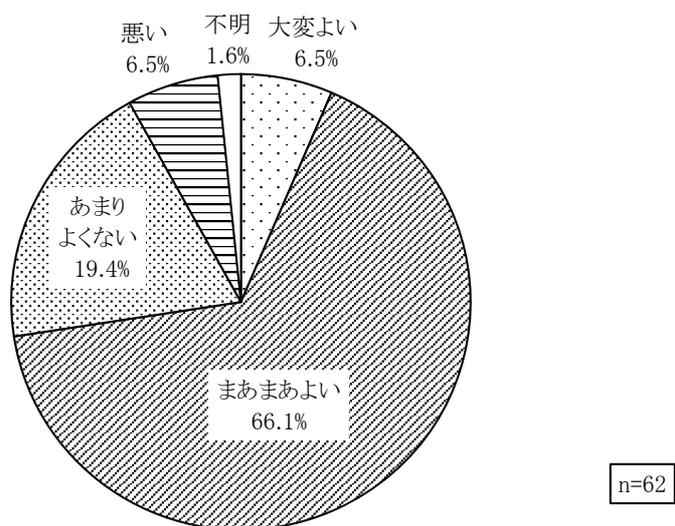
図表 8：最終学歴



**Q8 健康状態についてうかがいます。現在、体調はいかがですか。**

現在の健康状況については、「まあまあよい」が 66.1%、「あまりよくない」が 19.4%、「悪い」が 6.5%となっている。

**図表 9：健康状況**

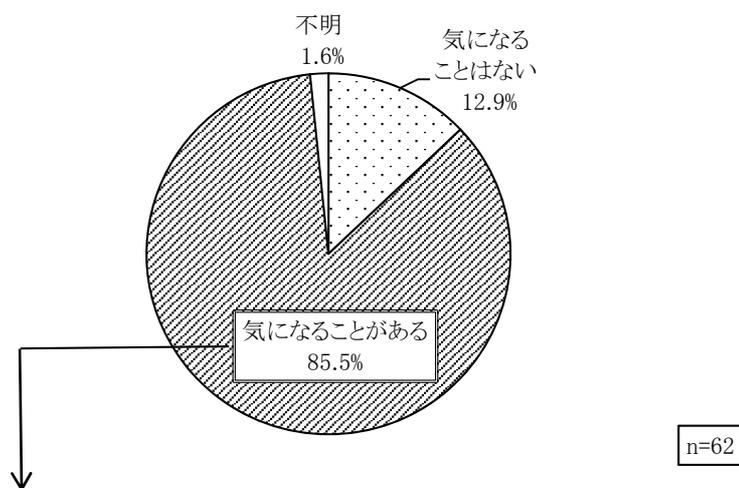


Q9 体調について気になることはありますか。

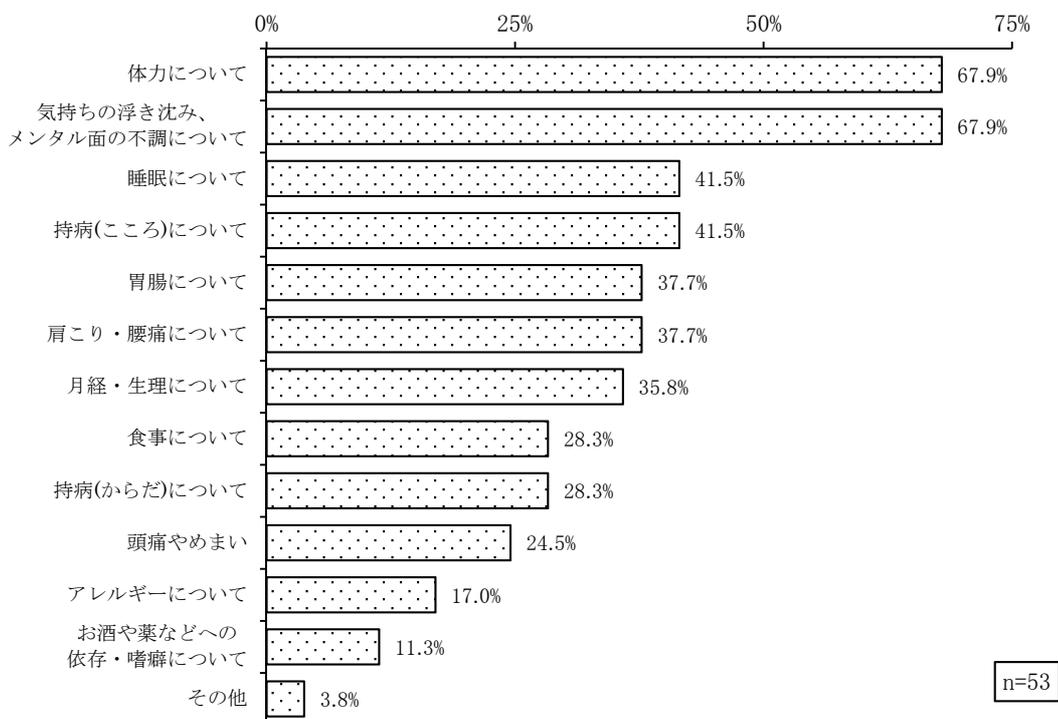
Q10 気になることは、どんなことですか。(複数回答)

体調については、「気になることはない」が 12.9%、「気になることがある」が 85.5%となっている。気になることについては「体力について」と「気持ちの浮き沈み、メンタル面の不調について」が 67.9%、「睡眠について」と「持病(こころ)について」が 41.5%となっている。

図表 10：体調について



図表 11：体調について気になること



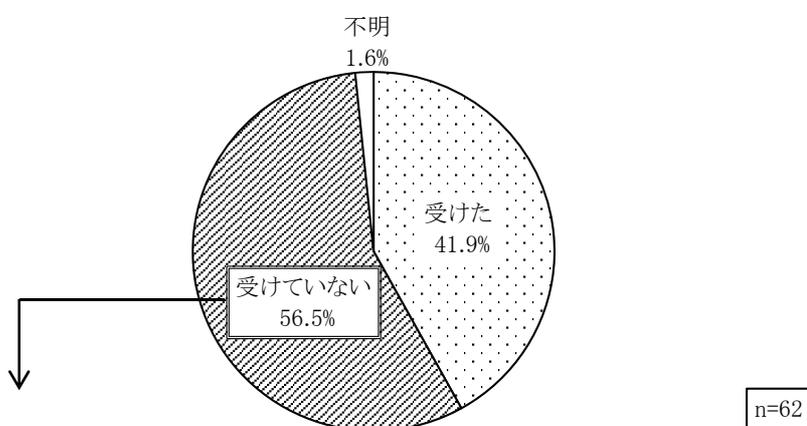
Q11 過去2年間に健康診断を受けたことがありますか。

Q12 最後に健康診断を受けてから、どれくらい経っていますか。

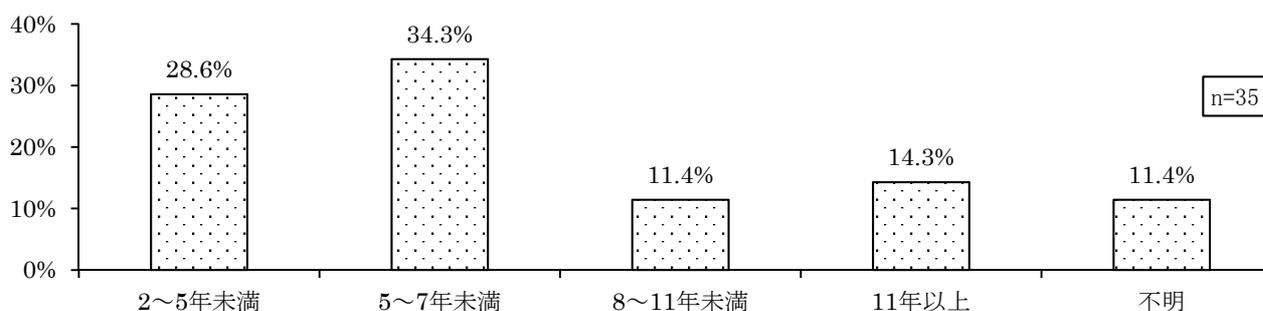
Q13 健康診断を受けていない理由。(複数回答)

過去2年間の健康診断の状況については、「受けた」が41.9%、「受けていない」が56.5%となっている。最後に健康診断を受けてからの期間については、「5年～7年未満」が34.3%、「2年～5年未満」が28.6%、「11年以上」が14.3%となっている。健康診断を受けていない理由としては、「受ける機会がないから」が77.1%、「費用がかかるから」が42.9%、「受け方がわからないから」が28.6%となっている。

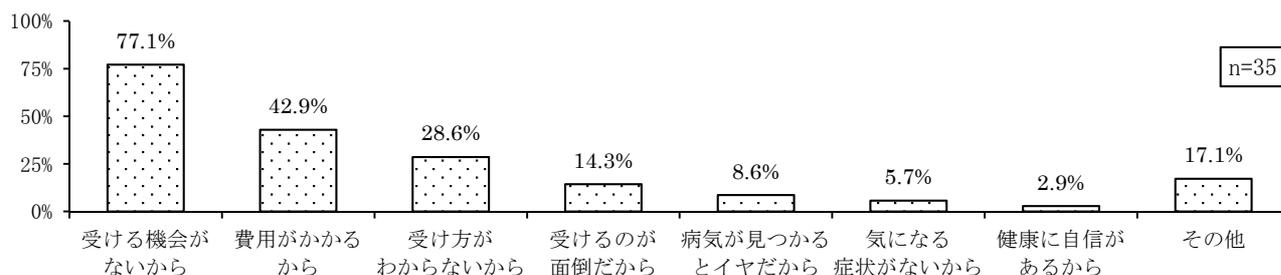
図表 12：過去2年間の健康診断の状況／最終健康診断／受けない理由



図表 13：最後に健康診断を受けてからの期間



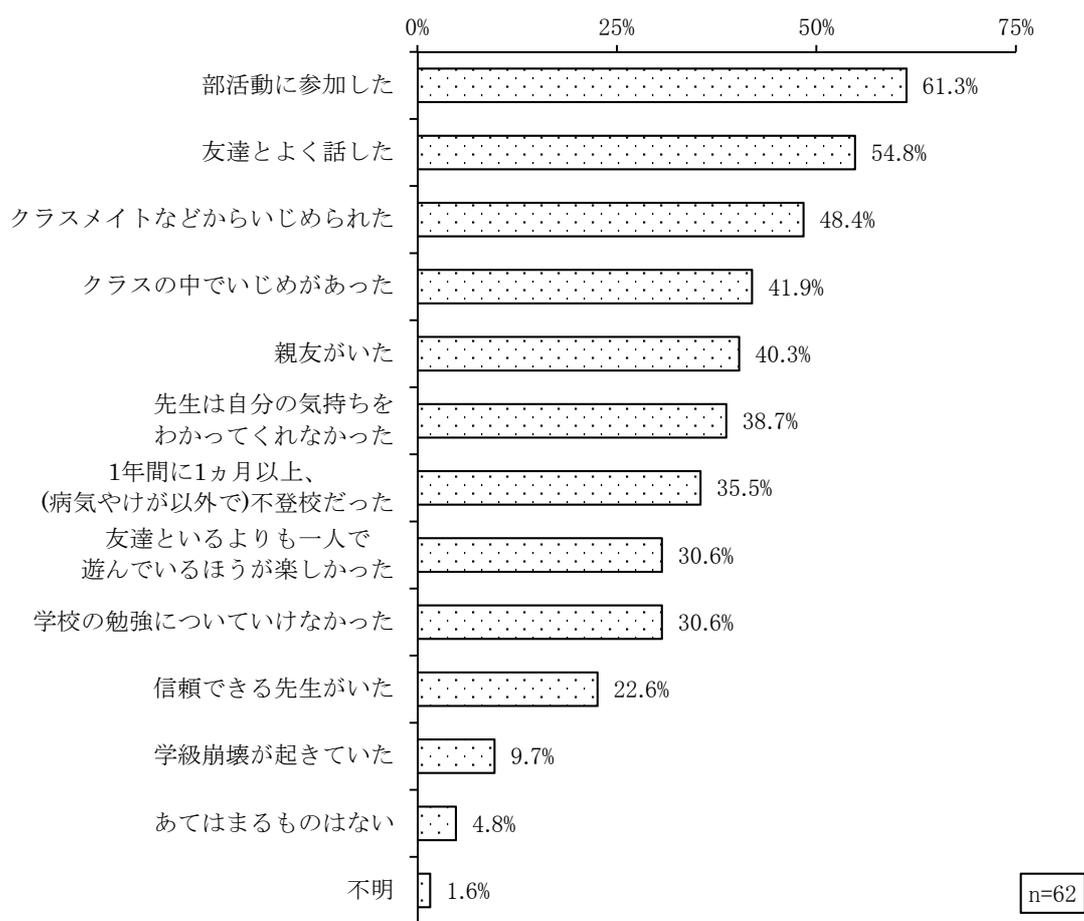
図表 14 健康診断を受けていない理由



**Q14 あなたはこれまでに、学校で次のような経験をしたことがありますか。(複数回答)**

学校での経験では、「部活動に参加した」が 61.3%、「友達とよく話した」が 54.8%、「クラスメイトなどからいじめられた」が 48.4%、「クラスの中でいじめがあった」が 41.9%となっている。

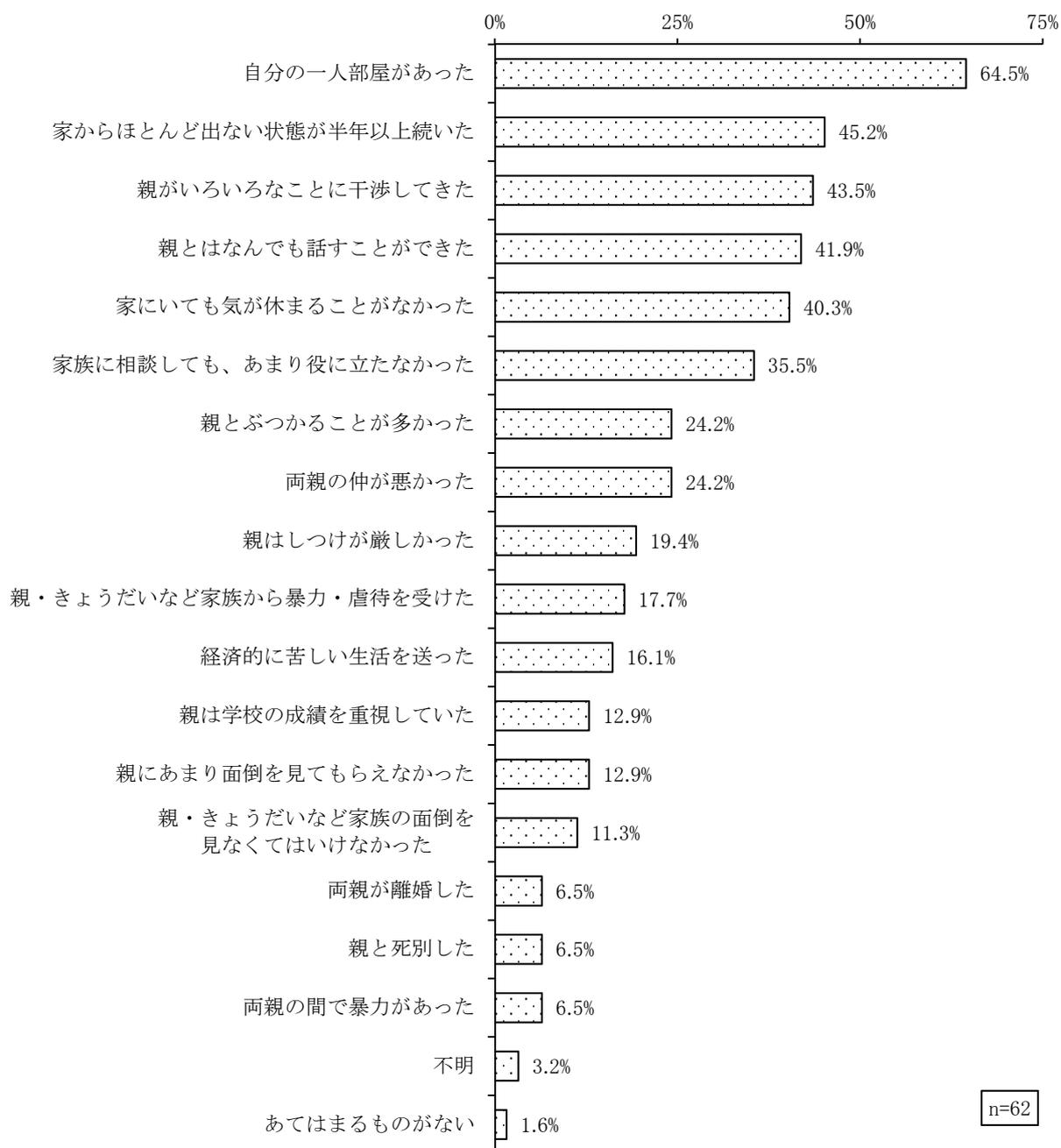
**図表 15：学校での経験**



**Q15 あなたはこれまでに、家庭で次のような経験をしたことがありますか。(複数回答)**

家庭での経験については、「自分の一人部屋があった」が 64.5%、「家からほとんど出ない状態が半年以上続いた」が 45.2%、「親がいろいろなことに干渉してきた」が 43.5%となっている。

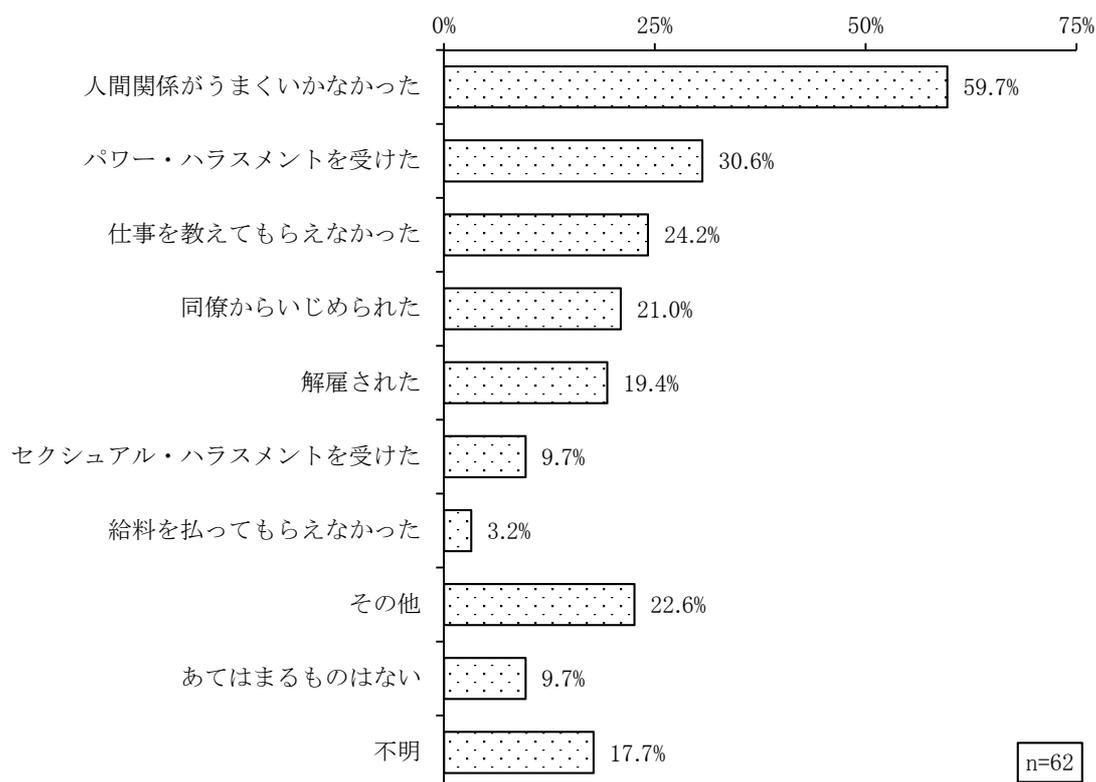
**図表 16：家庭での経験**



**Q16 就労したことがある方に伺います。あなたはこれまでに、仕事で困った経験をしたことがありますか。(複数回答)**

就労上困った経験については、「人間関係がうまくいかなかった」が 59.7%、「パワー・ハラスメントを受けた」が 30.6%、「仕事を教えてもらえなかった」が 24.2%となっている。

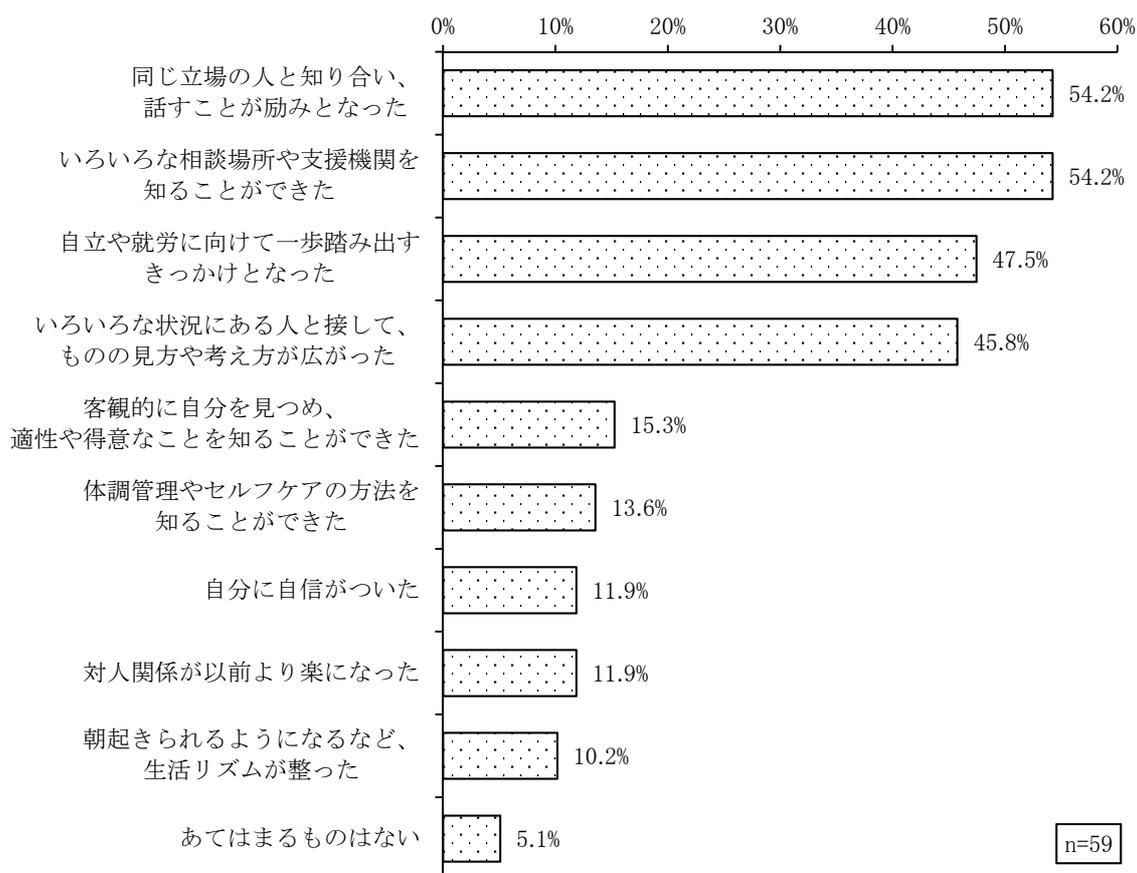
**図表 17：就労上困った経験**



### Q17 ガールズ講座に参加した方に伺います。ガールズ講座は現在からみて、どのような点で役立ちましたか。(3つまで)

ガールズ講座で役立った点については、「同じ立場の人と知り合い、話すことが励みとなった」が 54.2%、「いろいろな相談場所や支援機関を知ることができた」54.2%、「自立や就労に向けて一歩踏み出すきっかけとなった」が 47.5%となっている。

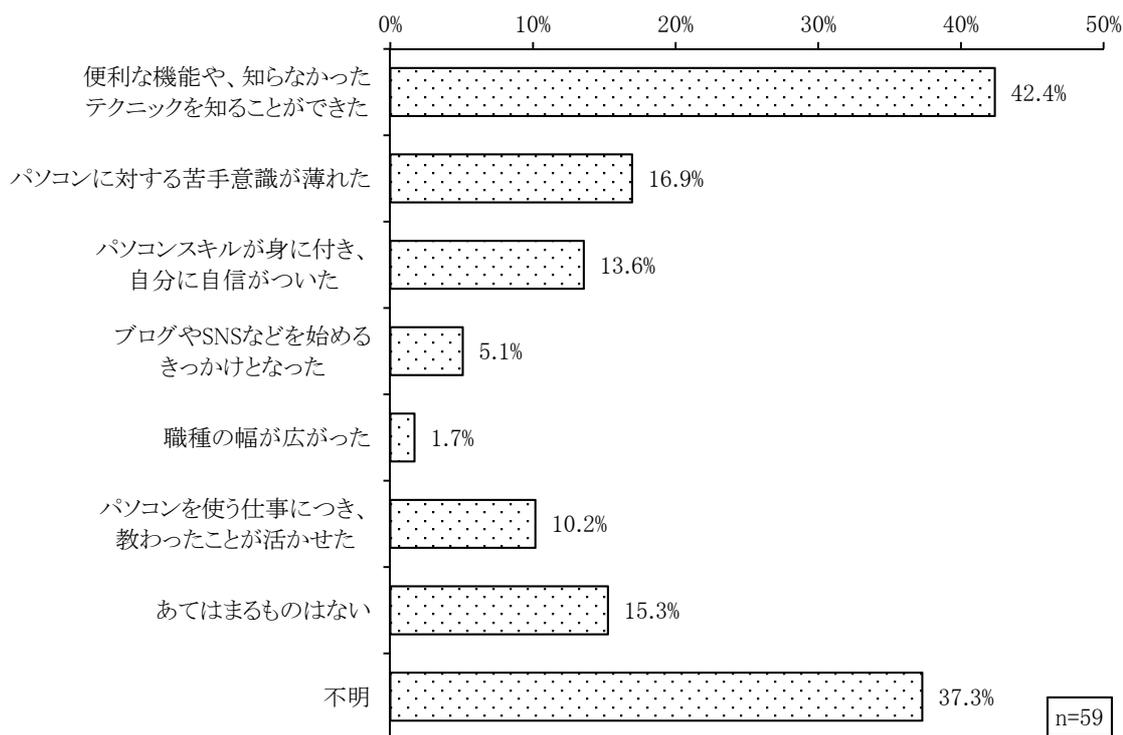
図表 18：ガールズ講座で役立った点



Q18 「パソコン講座」(ガールズ編 1~6期)に参加した方に伺います。「パソコン講座」は、どのような点で役に立ちましたか。(複数回答)

パソコン講座で役立った点については、「便利な機能や知らなかったテクニックを知ることができた」が42.4%、「パソコンに対する苦手意識が薄れた」が16.9%、「パソコンスキルが身に付き、自分に自信がついた」が13.6%となっている。

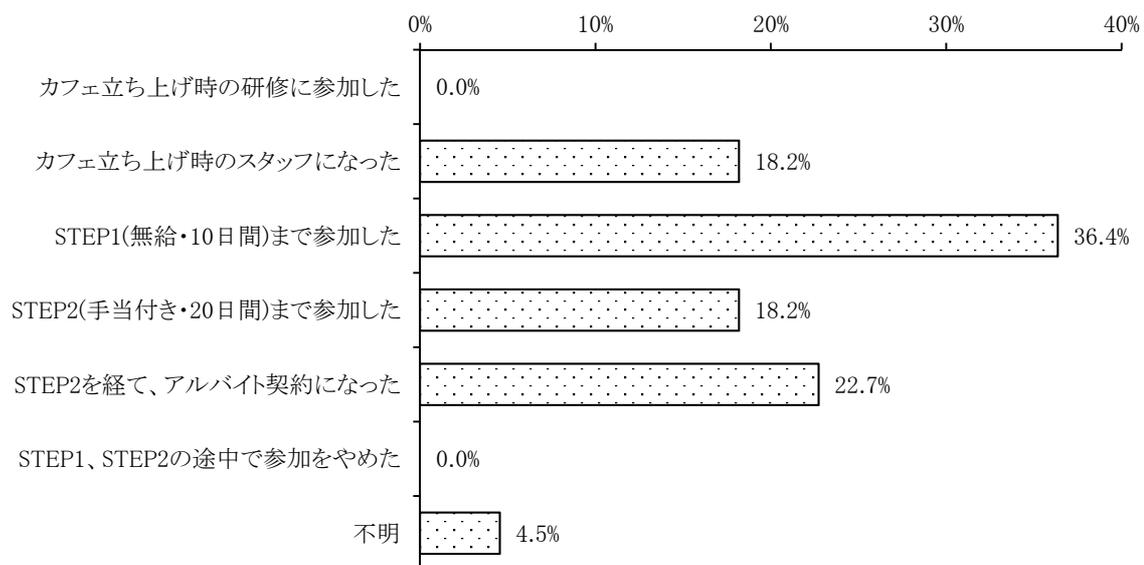
図表 19 : パソコン講座で役立った点



**Q19 「めぐカフェ」就労体験に参加した方に伺います。「めぐカフェ」就労体験には、どこまで参加しましたか。**

「めぐカフェ」就労体験での参加状況については、「STEP1(無給・10日間)まで参加した」が36.4%、「STEP2を経て、アルバイト契約になった」が22.7%、「カフェ立ち上げ時のスタッフになった」が18.2%「STEP2(手当付き・20日間)まで参加した」が18.2%となっている。

**図表 20 : 「めぐカフェ」就労体験での参加状況**

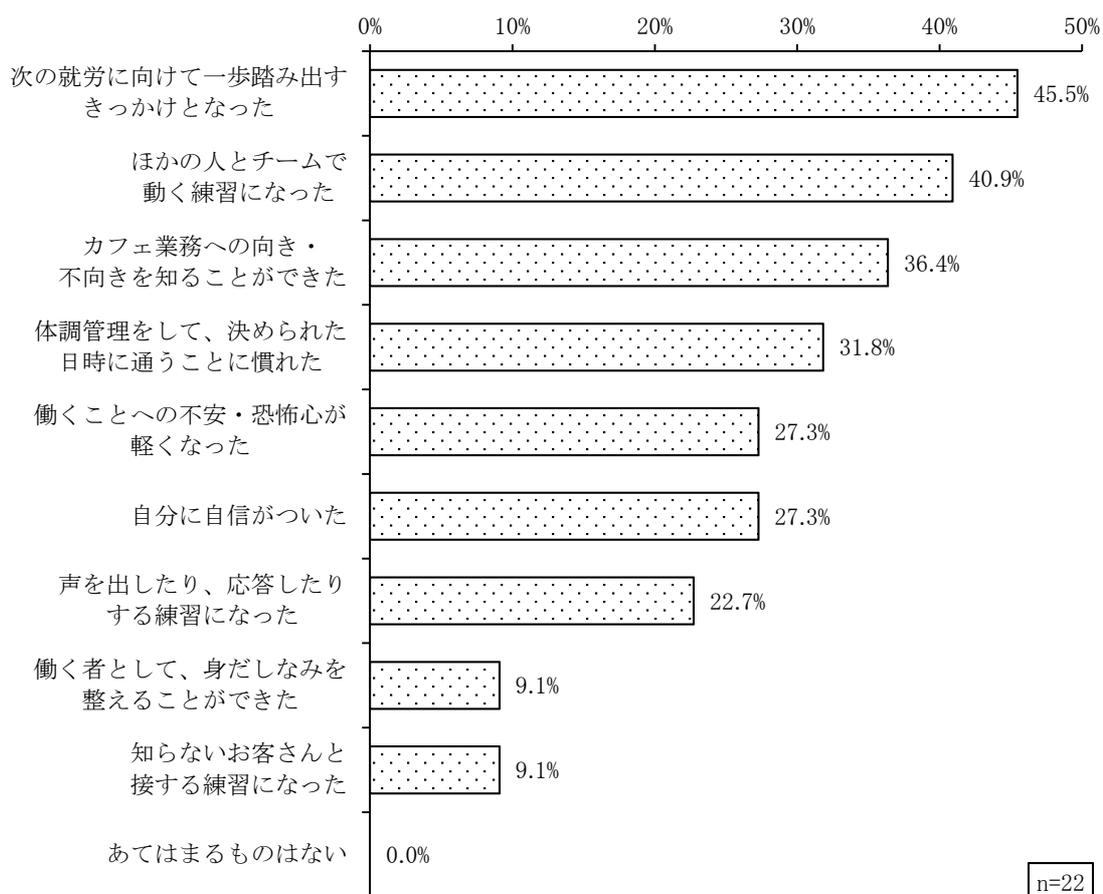


n=22

Q20 「めぐカフェ」就労体験に参加した方に伺います。就労体験は現在からみて、どのような点で役立ちましたか。(3つまで)

就労体験で役立った点については、「次の就労に向けて一步踏み出すきっかけとなった」が45.5%、「ほかの人とチームで動く練習になった」が40.9%、「カフェ業務への向き・不向きを知ることができた」が36.4%となっている。

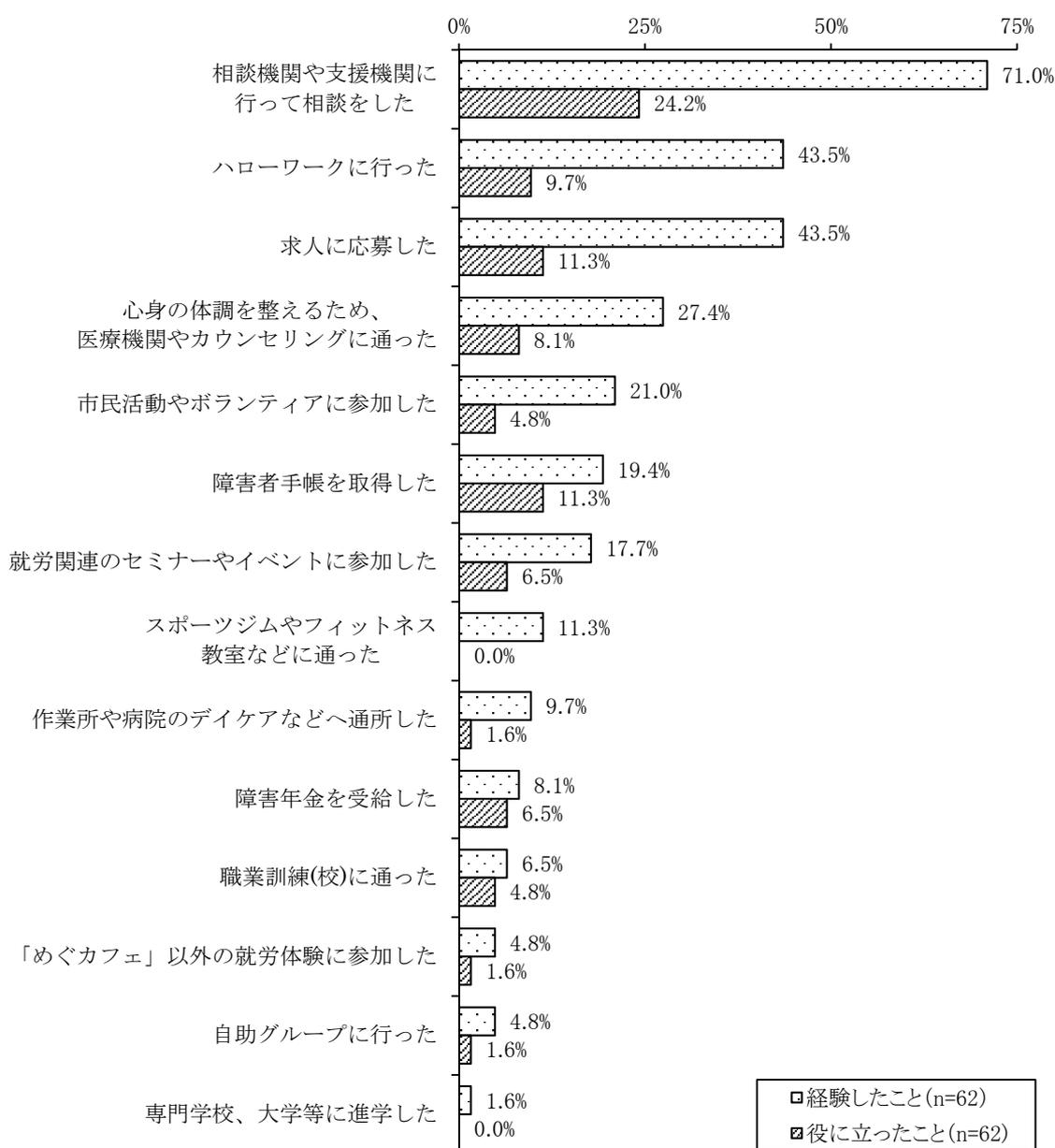
図表 21：就労体験で役立った点



Q21 ガールズ講座や「めぐカフェ」就労体験の修了後にしたことはなんですか。  
 (複数回答) その中で、特に役立ったもの・して良かったことはなんですか。(3  
 つまで)

ガールズ講座や「めぐカフェ」修了後にした事については「相談機関や支援機関に行って相談をした」が71.0%、「ハローワークに行った」が43.5%、「求人に応募した」が43.5%となっている。修了後にしたことの中で、特に役立ったものは「相談機関や支援機関に行って相談をした」が24.2%、「求人に応募した」が11.3%、「ハローワークに行った」が9.7%となっている。

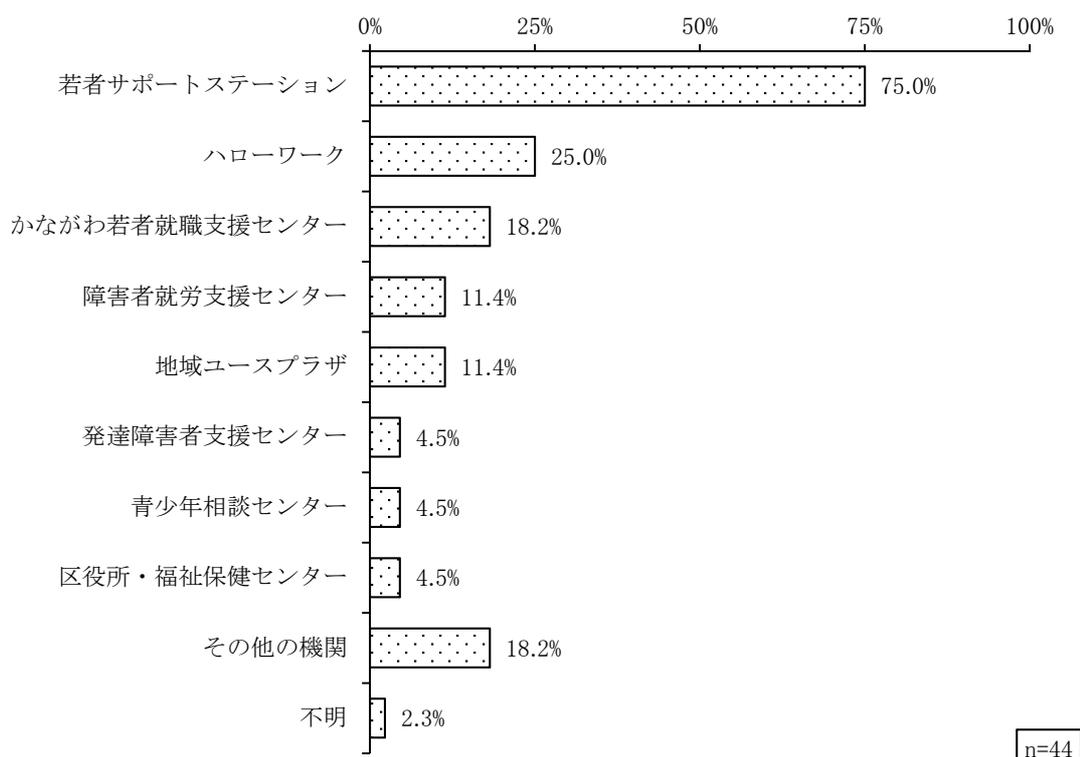
図表 22 : ガールズ講座や「めぐカフェ」修了後に経験した事/特に役立ったもの



Q22 Q21 で「相談機関や支援機関に行って相談をした」に○がついた方に伺います。どのような機関に相談しましたか。(複数回答)

Q21 で「相談機関や支援機関に行って相談をした」と回答した人の相談機関については、「若者サポートステーション」が 75.0%、「ハローワーク」が 25.0%、「かながわ若者就職支援センター」が 18.2%と「その他の機関」が 18.2%となっている。

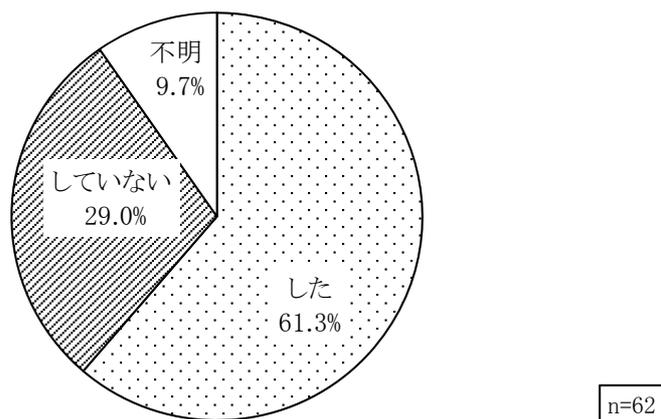
図表 23 : 相談機関



**Q23 ガールズ講座（「めぐカフェ」就労体験）修了後からこれまでに、一度でも収入のある仕事や活動をしましたか。**

ガールズ講座終了後の仕事や活動については、「した」が 61.3%（38 人）、「していない」が 29.0%（18 人）となっている。

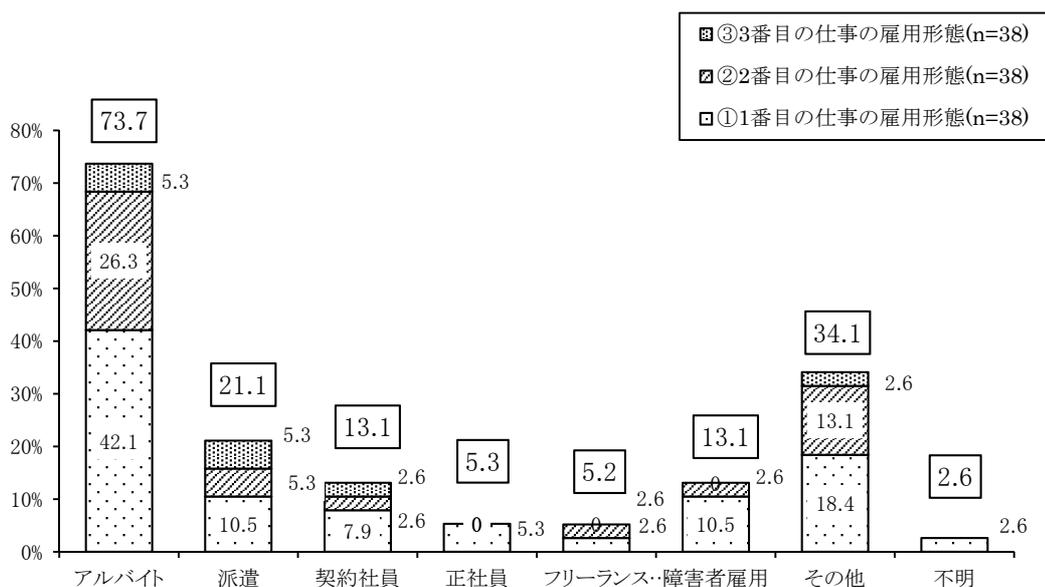
**図表 24：ガールズ講座修了後の仕事や活動**



**Q24 講座終了後からこれまでに経験した仕事の雇用形態（複数回答）**

講座修了後、経験した仕事については、「アルバイト」が 73.7%、「その他」が 34.2%、「派遣」が 21.1%となっている。

**図表 25：講座終了後経験した仕事（雇用形態）**

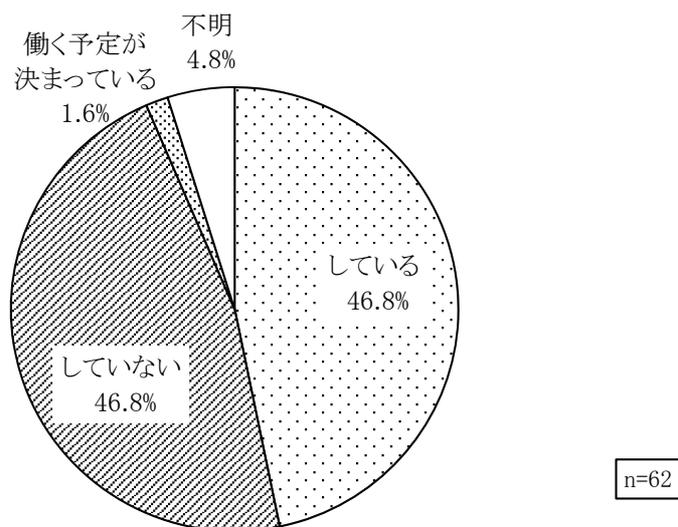


※口で囲んだのは雇用形態①～③の合計

Q25 現在、収入のある仕事や活動をしていますか。あるいは、これから働く予定が決まっていますか。

現在の就労状況及び予定については「している」が 46.8%、「していない」が 46.8%となっている。

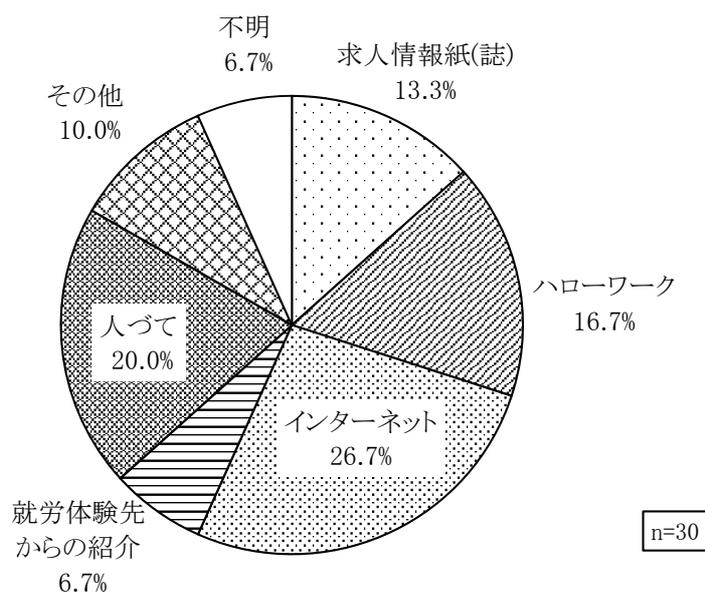
図表 26：現在の就労状況／予定



Q26 その（現在している）仕事はどのように見つけましたか。

就労や活動先の見つけ方については、「インターネット」が 26.7%、「人づて」が 20.0%、「ハローワーク」が 16.7%となっている。

図表 27：就労や活動先の見つけ方



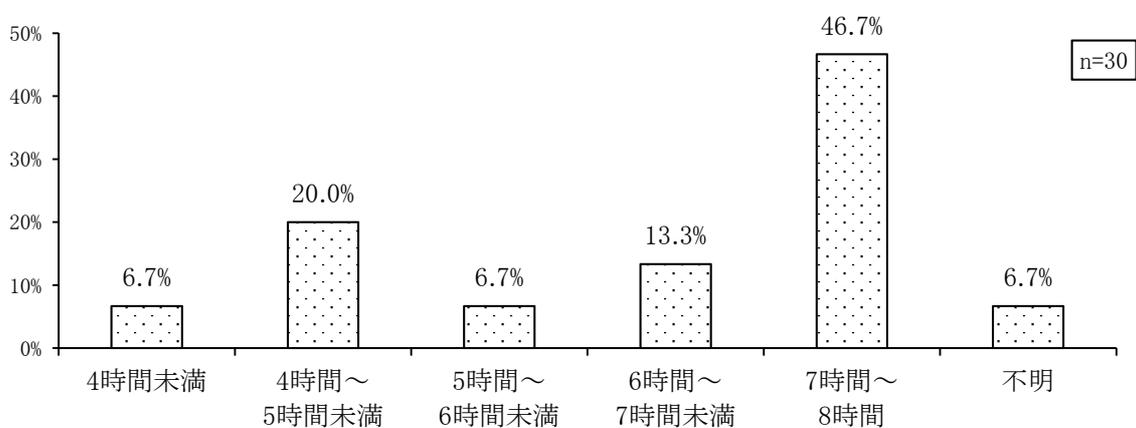
Q27 現在についている仕事・活動の条件についてうかがいます。複数の仕事をもつ方は、それぞれについてご記入ください。

現在についている仕事・活動の条件①1日の働く時間については、「7時間～8時間」が46.7%、「4時間～5時間未満」が20.0%、「6時間～7時間未満」が13.3%となっている。

②1週間の働く日数については、「5日」が46.7%、「4日」が16.7%、「3日」が13.3%となっている。

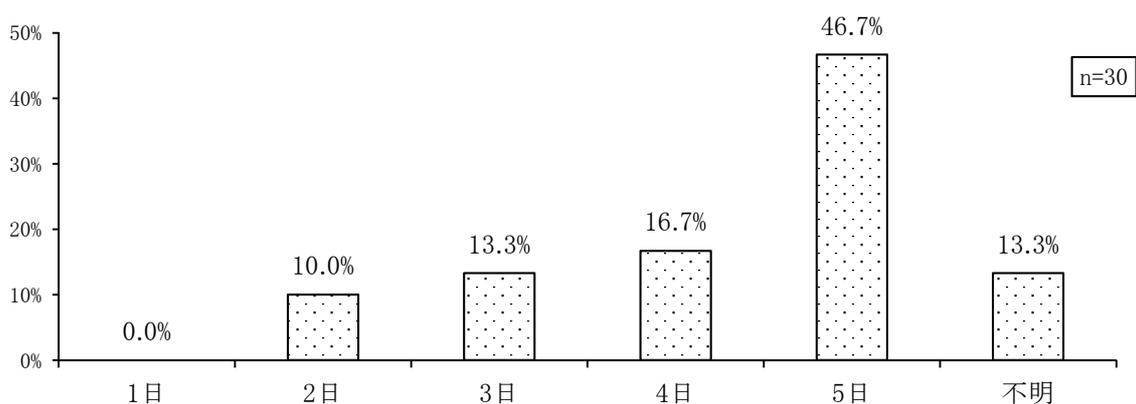
図表 28：現在についている仕事・活動の条件

① 1日の働く時間



図表 29：現在についている仕事・活動の条件

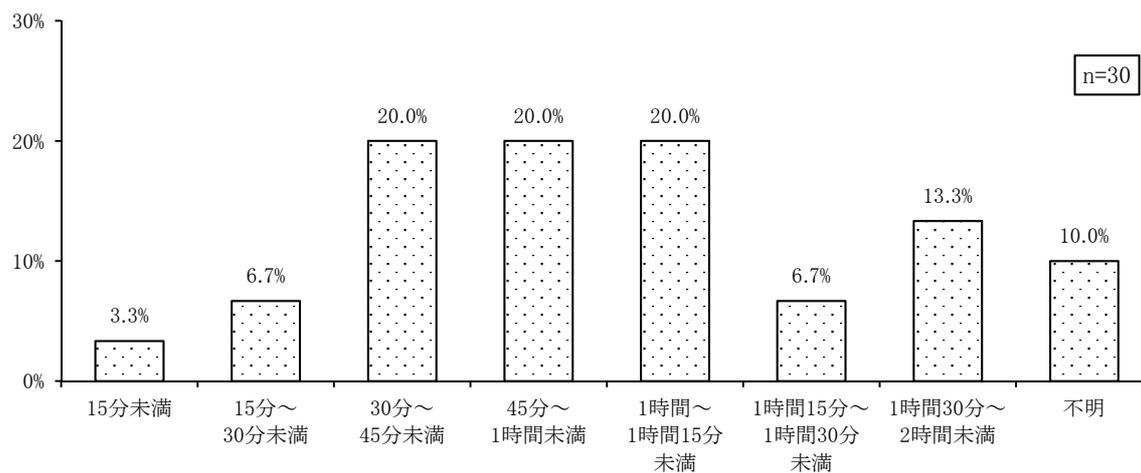
② 1週間の働く日数



③片道の通勤時間数(平均)については、「30分～45分未満」、「45分～1時間未満」、「1時間～1時間15分未満」がそれぞれ20.0%となっている。④交通費の有無については、「全額支給される」が56.7%、「支給されない」が23.3%となっている。

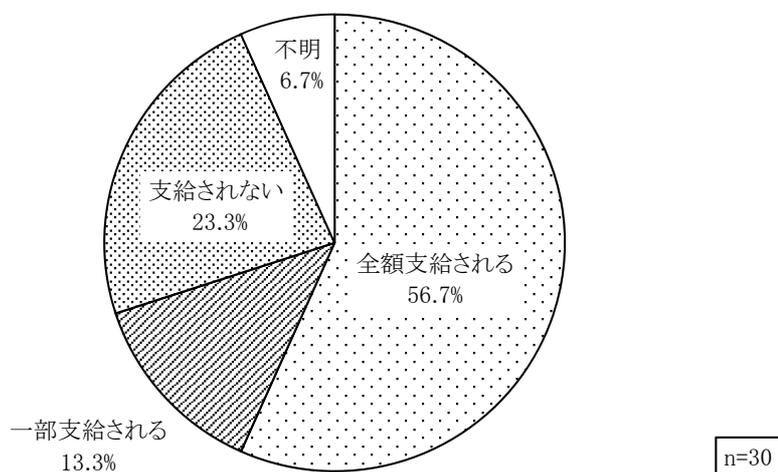
図表 30：現在についている仕事・活動の条件

③ 片道の通勤時間数(平均)



図表 31：現在についている仕事・活動の条件

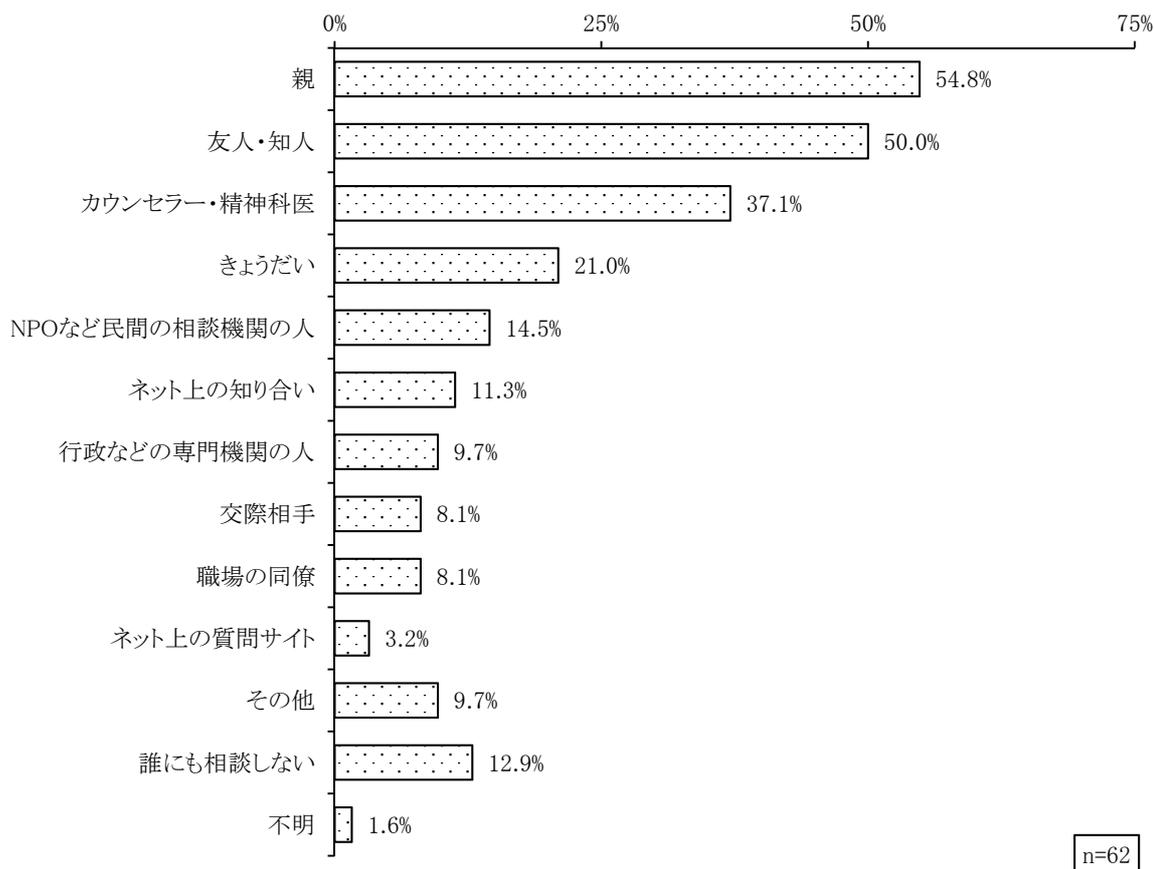
④ 交通費の有無



### Q28 困っていることや悩みごとがあるとき、だれに相談したり、話したりしていますか。(複数回答)

悩みや困った事の相談相手については、「親」が 54.8%、「友人・知人」が 50.0%、「カウンセラー・精神科医」が 37.1%となっている。

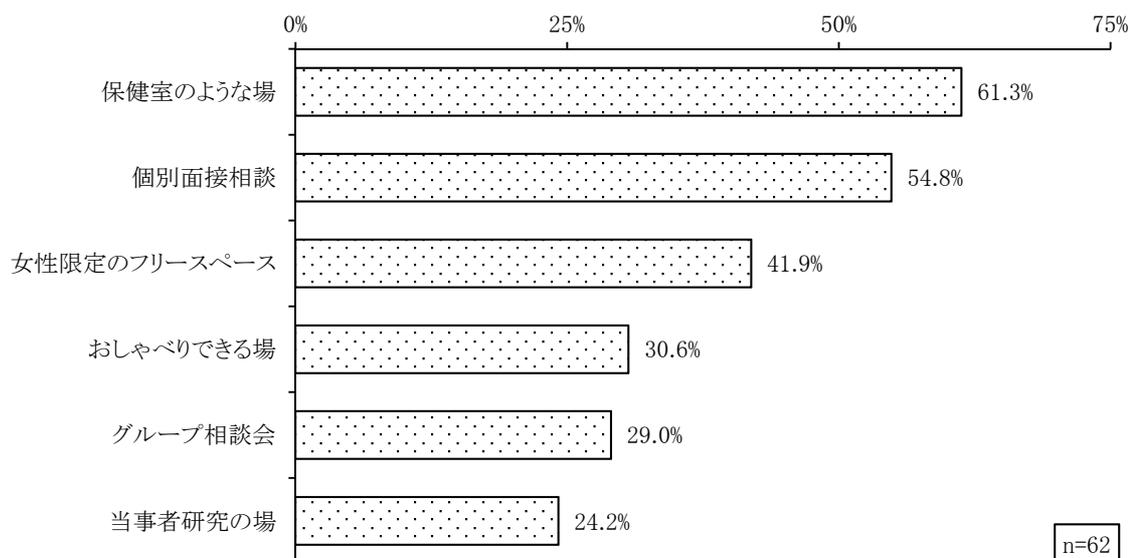
図表 32：悩みや困った事の相談相手



**Q29 困っていることや悩みごとについて話したり考えたりしたいとき、どのような相談や場だったら、利用してみたいと思いますか。(複数回答)**

困っていることや悩みごとについて話したり、考えたりしたいとき、利用してみたい相談の場は、「保健室のような場」が 61.3%、「個別面接相談」が 54.8% 「女性限定のフリースペース」が 41.9%となっている。

**図表 33 : 利用してみたい相談の場**



## 自由回答

Q17 ガールズ講座は現在からみて、どのような点で役立ちましたか。その他、役立ったことやご自身の変化について、特に気づいたことがあれば、自由にお書きください。

<同じ立場の人と知り合えた>

- ・就労も結婚もできず、悩んでいる人がこんなにたくさんいるんだ…とわかったことが何より大きかったです。自分から動き出せば助けてくれる場所も思っている以上に存在することもわかってホッとできました。
- ・ガールズ講座でしりあった友人と今でも交友がある。
- ・参加する前は不安もありましたが、色々な方の話が聞けて、私も頑張ろうと思えました。
- ・講座でしりあった人と友人になるなど、交友関係が広がった。
- ・自分の気持ちを抑えがちで、精神的に苦しくあったけれど、分かり合える人がいる事で、安心して通い、修了することができた。
- ・もう一度新しい人間関係を作るきっかけになった。
- ・同じ年代の人と話す機会に少し抵抗がなくなった。
- ・明るくなった。気の置けない友人ができた。

<自立や就労に向けて一步踏み出すきっかけとなった、自信がついた>

- ・これからの事を考えて、ふさがちになりがちだったのですが、外に出る一つのきっかけになりました。
- ・精神疾患と診断され、会社を退職し、外出は通院のみで友人たちとも交流を断っていた自分は、とても人が恐くなっていて、集団に入ることが恐怖で、それ故、就労はとても無理だと思っていた。しかし、ガールズ講座を10日ほど休まず行き続けることができたことは自分の中で小さな自信になり、その後の行動(就労へのチャレンジ)につながったと思う。現在無職で引きこもりに戻ってしまっただが、ガールズ講座の経験があるのでどんなに落ちてもやり直しはきく自信はある。
- ・数年間、自堕落な生活が続いていましたが、やはり「何か」をやる、続けられるというのは自分への自信になると確認させられました。
- ・ガールズ講座の受講がきっかけで、次の新しい世界の扉を開いて下さったことに、深く感謝しています。(具体的には、障害者就労の道です)
- ・メイク講座でメイクのやり方を学んだことで外に出ていきやすくなった。

<いろいろな状況にある人と接して、ものの見方や考え方が広がった>

- ・自分だけがダメなのではなく、女性が経済的に自立できない社会なのだとわかった。そのことにより自分を過剰に責めなくなった。

- ・同じ年齢に近い人も困り事がある、と感じた。只、PC スキルをもっと頑張りたかった。また PC スキルをもっと奥深く追求したかった。
- ・全部できなくても、仕事やり始めてからいろんな人に少しずつ教えてもらったり助けてもらってもいいということが(講座の)担当者の雑談からヒントをもらえた。
- ・生きづらさ、働きづらさに悩む女性がとても多いことを知り、個人的な問題としてではなく、社会的な問題として視野が広がった。適応できない自分に悩むのではなく、どのように自分を生かせるかその為はどうしたらよいか、と考え方が発展的になった。
- ・同じ悩み、立場の人たちと会って、また支援、指導して下さる方々に会って、それまで自分のことばかり考えていましたが、まだ一步を踏み出せずにいる人(今までの自分が抱えていた悩みを今もっている人)の力になればと思うようになりました。

#### <その他>

- ・疾病手当をもらっていて、就職活動は、遅くなってしまったけど、障害者就労センターへ相談にいき、障害者手帳の取得と、障害者の向けの仕事をハローワークへ相談にいき、障害者就労センターのサポーターといっしょにハローワークへ行き、仕事をみつけることが出来た。
- ・生活リズムが整いました。また、講座では様々なことが学べ楽しかったけれど講座を終えて今どうしたらいいのか分からずにいます。アルバイトや就活も上手くいかず次のステップへ上手く進めないのが悩みです。同じような人の話や抜け出せた方法きっかけなどあれば聞いたり話し合ったりしたいです。
- ・参加してわかった事は、やはり人が苦手な馴染めませんでした。PC も今でも全く出来ません。
- ・どこのどんなものであれ、就業訓練を受けた後はすぐに働くことが大切だということを学びました。就活ニートだけは本当にしない方がいいです。精神的にも金銭的にもダメになります。彼氏がいるなら彼氏のためにも自分のためにも、働いた方がいいです(アルバイト、パートが一番です)。
- ・知識は色々身につき良かったです。
- ・体調が悪くなり摂食障害で苦しんでいてなおそうとたたかっている最中です。
- ・あまり学校に行っていないため、集団に所属したということがないのですが、こういうアンケート等で気にかけて頂けると正直嬉しいです。
- ・アサーティブネスが役立っている。

Q18 「パソコン講座」は、どのような点で役に立ちましたか。その他、役立ったことやご自身の変化について、特に気づいたことがあれば、自由にお書きください。

- ・パソコンの知識が更に深まって、普段ネットやメールしか使わなかったのでエクセルの使い方を教わられたことが大変役立ちました。
- ・昼食後に他の人達と机を並べてパソコンに向かっている時、以前働いていた時(デスクワークのこと)の感覚を思い出した。また働けるんじゃないかと少し思えた。一人で過ごしていたりひきこもっている時には忘れていた感覚だったので。
- ・受講中、私の気力は朝起きて決められた時間に場所に行き、複数の人間の中で日中を過ごすだけで精一杯で、"将来の就労のためにパソコンスキルを向上させよう"など思う余裕はなく、ただ退屈で、何も頭に入ってこなかった。だけどそれでも、その場にただけで良かったかなと思う。
- ・SNS に初めて参加した。
- ・パソコン講座がきっかけで、もっと深く学ぶため街のパソコンスクールに通えるようになったことが私の中の大きな進歩です。
- ・パソコンの担当者の方が優しくしてフレンドリーでそれだけでも心の支援になりました。
- ・パソコンのメールを打つのもはくなりました。
- ・パソコン教室に通っていて、ガールズ講座でやったことを復習しています。
- ・自分について考える機会に恵まれました。(仕事や、kaien での就業訓練での失敗を通じて) また、自分の過去についても考えることが出来ました。
- ・実生活でパソコンを使う時にできることの幅が広がった
- ・これをきっかけにフォーラムの有料の PC 講座を受講し、そこで得たスキルが非常に役立った。
- ・エクセルを初めて教わって、それが仕事に少し役立てたと思う。パソコンの基礎の基礎を習うことにより、幅広い世界とつながることができたと思う。
- ・引きこもっている間、ずっとパソコンをさわっている状態だった。なので、知らず知らずのうちに、講座で習ったような内容は身につけてしまっていた。
- ・エクセルに対して苦手意識があったが使えるようになった。
- ・パソコン講座でワードやエクセルを習ったことが後のバイトで役に立った。

Q20 就労体験は現在からみて、どのような点で役立ちましたか。その他、役立ったことやご自身の変化について、特に気づいたことがあれば、自由にお書きください。

- ・働く事に対する楽しさを感じる事ができました。働きたいという意欲を強く感じる事ができたので、前へ進みたいという気持ちにつながることができました。
- ・私はめぐカフェの就労体験のことを知ったことが、若者サポートステーションに行くきっ

かけになり、そこで親身に話を聞いてもらったことが今の職場で働くことに繋がりました。今年の4月からは、大学の通信学部に入學して、充実した勉強をしながら仕事をしている毎日です。生活がまた動き出すきっかけを与えてくれためぐカフェの活動には大変感謝しています。ありがとうございました。

- ・長年の疑問が腑に落ちた。自分自身の内面が見えた。社会貢献の実感がようやく持てるようになった。
- ・働くことによって、お金をもらう喜びを得ることが出来た。
- ・女性限定だったので男性が苦手な自分でも参加することが出来た。
- ・働いたことがなかったのでとてもいい経験になった。が体調を崩していったので次のステップにつなげられず、よくなったらまた「めぐカフェ」での事を思い出していきたい。
- ・今まで苦手だった一緒に働く人とのコミュニケーションの取り方、相手や自分がどうすればお互い気持ち良く働けるか、接し方や話し方など実践の場になって良かった。失敗した時、体調の悪い時などの気持ちの整え方なども。
- ・特に仕事内容が難しい、というわけではなかった。だが、なんとなく"私に向いてる仕事でない"、"長く続けたい仕事ではない"といった感じを受けた。自分に向いてない、またはやりたくない仕事に分かって良かった。

**Q21 ガールズ講座や「めぐカフェ」就労体験の修了後にしたことはなんですか。その他、講座や就労体験の終了後にした行動・活動で、特に役立ったことなど書きたいことがあればお書きください。**

- ・それまでずっと感じつつも真剣に向きあっていなかった自分の心身の調子の悪さに向き合う覚悟を決めて精神科に通うようになりました。
- ・労災がらみで、法律や相談先を教えてもらった事が非常に役立ち、とても助かった。(職場からは労災についての情報提供が一切なかったため。労働者側が最低限の知識を仕入れて賢くならなければ損をするとも思った。)
- ・PC講座
- ・悩みやすい自分は、熱があるうちの行動が必要。
- ・POSSEとか実用的かつ親身になってくれるグループがあることを知れて良かった。ボディショップの人のメイクの講座も良かった。
- ・「いちごの会」に参加した。また、ガールズ講座修了生の数名で、「いちごの会」のような集まりを数回、企画した。
- ・自分を立て直すため、内面からみがこうと頑張っています。
- ・「めぐカフェ」の就労実習で教わったレジを、現在のボランティアカフェで実践することが出来ている。
- ・発達障害であることが判り、就業訓練(kaien と呼ばれる所です。)を受講しましたが、すぐ

に仕事に就けずブランクが出来てしまい、お金と仕事のないことが原因で、精神に不調をきたしてしまいましたが、PCスキルは確実にものになっていると信じたいです。

- ・在宅ワーク支援セミナーというものに参加しました。色々な働き方があると知り少し勇気もらいました。
- ・ジョブトレーニングに参加した
- ・新しいことをやろうという意欲がわいてきた。
- ・フォーラムで開催していただいたパソコン講座アドバンスが(名刺作りやポストカードブック作り)とても楽しく、その後も役立っています。
- ・障害者として認められる事により、金銭的に負担が減り、両親も、安心した様を感じる。
- ・かながわ若者就職支援センターでカウンセリングを受けた。カウンセラーのすすめで、セミナーを受けたり、事務のバイトを探したり応募したり…と色々やったが、最終的には、バイト情報サイトで見つけた接客バイトに勢いで応募しました。
- ・結婚、妊娠、出産を経て一児の母になった。
- ・発達障がい診断を受けた。
- ・ガールズ講座でサポートステーションのことを知り、修了と同時に通い始めました。相談することで就労への不安を少しずつやわらげることができ、そこからかながわ就労支援センターの利用、「かなつく道場」の受講、ハローワークの利用と順を追って進むことができ、半年前にパートの仕事を始めることができました。その時の自分に合った機関(相談先)を知ることができたから、先に進めたと思います。
- ・ガールズ講座で、西部ユースプラザを利用したことのある方のお話を聞いて、そこへ行くきっかけになり、そのつながりで寮生活(K2インターナショナルという団体で、根岸に住んでいます)に踏み出すことができました。
- ・ガールズ講座で障害者手帳のことを伺ったので、国立精神・神経医療研究センター病院に行ったら、障害者手帳はもらえない、病気でもない、仕事に就けないのは、自分のせいと言われた。(役立ってはないが、諦念の境地にならざるを得ない。)
- ・通信制の大学を受験した。(合格したが行かず)

### Q30 最後に、こんなサポートがあったらうれしいというようなご意見・ご要望がありましたら自由にお書きください。

- ・同じ立場にあるガールズ同士の交流がもっとさかんに出来ればいいな、と思っています。修了直後にはメーリングリストでそこそこ交流が出来ていましたが…次に向かえる人とそうでない人がいるので、その辺はむずかしいでしょうね…。
- ・働く女性のモデル(自分にとって参考となるような身近な例)が少ないように思います。恵まれた人の成功例だけでなく、「こういう風にバランスとって生きている人がいる(=だから私にも出来るはず)」と思えるような例を多く知ることが出来たら、先の希望にもつながるのではないかと思います。

- せっかく雇ってもらっても新しい環境ではりきって頑張りすぎ、結局体調、精神状態が悪化し、短期間でやめてしまうことがあって、次もそうなるのでは、と恐い。お給料はもらえなくてよいから1~3ヶ月とか半年、就労体験という形で会社の仕事をさせてもらい、お互いの合意があれば雇用契約も結べる、なんていう形があれば力まず、自然に仕事に取り組める気がする。仮にそんな人的余裕がある企業があったとして、そのような企業と私たちを橋渡ししてくれるサポートがあったら非常に嬉しい。
- 障害者認定はもらえない、障害者と健常者の間にいる人、精神科に行っても病気ではないと言われる人をサポートしてほしい。そういう人が一番生きづらい。
- 手仕事、料理が出来ない人をサポートしてほしい。
- めぐカフェに参加させて頂き、自分と似て社会で生きづらさを感じる女の子達と話せたのは励みになりました。ただ、自分の消極的な性格もあって就労体験が終わってから続くような関係は作れなかったのも、折角の機会だったので少し残念に感じています。例えば、ガールズ支援事業の参加者限定のSNSなどがあったら、関係を繋げていったりもしやすいのかな?と思ったりもします。
- もう一回幅広い年齢のニート(確実に若い人の就労が困難になっている)に、もう一回、または何度もガールズ講座を開いて欲しい。何回もやる事によってかっこたる自信がつくから。
- (今の「いちごの会」のような)話しても聞いているだけでもOKのような場があったらうれしい。また、ガールズ講座を終えたもののその後社会参加につなげられていない人達を対象にした講座があったら出てみたいです。
- 働くにつながる一步の一つとして、社会人の節度ある服装をレクチャーやテキストとして教えていただけると、かなり助かる気がしました(印象の良い着方などを簡単に写真やイラストを載せたテキストや指導など)。
- 今のサポート体制で、十分幸せです。
- この講座が長く続いていくことを願っています。でも、その講座の後の別機関への橋渡しやサポートも必要な人も多いです。どうか助けてあげてください。私自身とても助けられました。その後は何とか仕事にも就き、縁ないと思っていましたが昨年結婚し、今年には子どもも生れます。またおちついたら仕事もしたいです。私よりたくさん大変な人がいることにも気付けた"排除のない"講座の場でした。皆さんの幸せを今も願っています。
- 人間関係が難しいので心の相談できる場所があったら、心強いと思います。
- ガールズ講座やめぐカフェ就労体験の修了者のその後(就職率など)を明示してほしい。
- 男女の出会いのサポート。笑
- コミュニケーションがうまくとれないなど対人障害を持つ人の家族の会。
- 家族の相談が出来る場所がなくて、困っているのでそういう場所があればなと思います。
- メールで悩みを相談できて、専門的な相談先を紹介してくれるサポート。
- ガールズ講座で学んだことを学び直せる有料講座(メイク等)。
- ガールズを受講させて頂いたことは次のステップへと進む大きな足がかりとなったことは

間違いありません。ガールズへ参加したことが自分を客観的に見つめるとてもよい機会でした。参加をしたことで嫌なこともありました。しかし、何事にも自分にとって都合のよいことばかりのことなどありませんので、"よいことだけを活かして次につなげて行けばよい"とプラス思考を心がけました。他の方にもそういう気持ちで参加すればガールズはとても有意義だとオススメしたいと思います。

- ・ガールズ講座繋がりフォローアップがもう少しあれば良いと思いました。また、20代と30代だと状況もかなり違ってくる面も多いと思うので、年代別に何かがあれば参加してみたいです。あとは、気軽に相談できるところがなかなかないので、こちらもあれば良いです。なかなか相談機関に繋がったりする事も難しく、繋がっても続けられない事が多いです。自助グループやサポステ・就職支援センターなどにもひととおりに通ってみました、なんとなく合わず辞めてしまいました。今は仕事もしておらず繋がりもないため、何かあれば気持ちが楽になるのではないかなどと思ったりもしていますが、なかなか難しいのが現状です。
- ・現在体調が悪いため今の生活をおくるのにやっとの状態です。動けるようになって利用できるいろんなサポートがあればうれしいです。
- ・修了者が、集まって話合える様なフリートークの場を紹介してくれたら、嬉しい。OG会など…。
- ・ガールズ講座を受けた同期の方々がどうしているか知る機会があったらうれしい。発奮して、仕事にはげみたい。
- ・ガールズ講座のメンバーはアーティスト系が多いと伺ったので美術のPCソフト(例えばIllustratorやphotoshop)の初級講座があると良いと思う。私も含め事務に向かないタイプへの就職サポートなどもあったら嬉しい。
- ・せっかく他の受講生と知り合えたのに、人間関係が長続きしなかったこと。私の対人スキルがダメなんだろうな…。
- ・ガールズ講座について熟知？している専属の心理療法士の方がいると良いなと思いました。
- ・電話・メールで相談できるサポート。「相談「場」」に直接行くのは時間もお金も厳しい人が多いと思うので。特にメールの場合は自分の考えを文章に起こすわけで、その時点で自分の悩みに気づく人もいるのではと思います。

### 3 調査結果の分析

#### (1) 事業の有効性

##### ①修了後の就労状況について

回答者の内、現在（2013年8月1日）、収入のある仕事や活動をしている人は46.8%と半数近い結果になった。ガールズ講座や就労体験修了後に、一度でも収入のある仕事や活動をした人は61.3%にのぼった。修了者の中には、物を創作して販売したり、有償ボランティアなどの活動をしたりするものもいるため、単に就労（雇用されたか）の有無を尋ねるのではなく、収入のある仕事や活動をしたかどうかを尋ねる設問とした。雇用環境が厳しい状況で、働きづらさを感じている女性たちが、ガールズ講座や就労体験修了後すぐに就職先を見つけ、働き始めることは大変難しいというのが現状である。その中で、6割以上の修了者が一度でも収入のある仕事や活動につけたこと、そして調査時点で半数近くの修了者が仕事についているという結果は、講座の有効性を示しているといえる。

修了後からこれまでに経験した仕事の雇用形態については、「アルバイト」が73.7%と最も高く、次いで「派遣」21.1%、「契約社員」と「障害者雇用」がそれぞれ13.1%となった。また、「その他」が34.1%と高いが、これには有償ボランティアや地域作業所での作業、回答者が雇用形態を正確に把握していないものなどが含まれる。「正社員」という回答は5.3%であった。

現在についている仕事・活動の労働時間は「7～8時間」が46.7%で最も高く、1週間の労働日数についても「5日」が46.7%と最も高かった。今回の調査でも明らかになったことだが、講座や就労体験の参加者は体調面や健康面で働きづらさを抱えるケースが多い。そのような人たちにとって1日に7～8時間、週5日間働くということは容易なことではなく、現在、就労していると答えた回答者は、こうした問題をなんとかクリアした人たちと考えることができる。交通費の支給の有無については、「全額支給される」が56.7%と半数は超えているが、「支給されない」が23.3%と1/4近くにのぼる。アルバイトに交通費を支給しない事業者もあり、講座修了者の就労条件の厳しさがうかがわれる。

##### ②ガールズ講座で役立ったこと

ガールズ講座が役立ったこととして多く挙げられたのは「同じ立場の人と知り合い、話すことが励みとなった」「いろいろな相談場所や支援機関を知ることができた」「自立や就労に向けて一歩踏み出すきっかけとなった」「いろいろな状況にある人と接して、もののみ方や考え方が広がった」の4つである。ガールズ講座の参加者は、多くの場合、孤立しており、自分だけがこのような状況にあるのではないか、仕事に就けない・働きづらいのは自分が悪いからではないか、と考えている。ガールズ講座では、①安心感を体験すること、

②自己肯定につながる気付きを得ること、③孤立から脱出することを目的としてプログラムを組み立てており、同じような状況にある女性たちが11日間をともに過ごすことで、「自分だけではない」と感じることができ、大きな励みとなっている。また、自由記述では、自分たちの状況について「個人的な問題としてではなく、社会的な問題として視野が広がった」といった回答が複数あり、同じように悩む女性たちとの出会いによって、さまざまな困難を構造的・社会的な課題としてとらえられるようになったこともわかった。

### ③「めぐカフェ」就労体験で役立ったこと

「めぐカフェ」就労体験が役立ったこととして多く挙げられたのは「次の就労に向けて一歩踏み出すきっかけとなった」「ほかの人とチームで動く練習になった」「カフェ業務への向き・不向きを知ることができた」等である。講座と違って、就労体験では、さまざまな立場の人とチームで働き、実際に接客の経験をするようになる。修了者にとっては、得意なことと苦手なことを知る機会となり、自分に向いている仕事は何かを考えるきっかけともなっている。また、「自分に自信がついた」という回答は22.7%で、ガールズ講座で役立ったことについての回答より高い結果となった。就労体験を通して手応えを感じた修了者にとっては、大きな自信にもつながっていることが見て取れる。

### ④修了後にしたこと・役立ったこと

修了後にしたこととしては、「相談機関や支援機関に行って相談をした」が71.0%で最も高く、役立ったこととしても24.2%と最も高い結果となっている。相談した機関は「若者サポートステーション」75.0%、「ハローワーク」25.0%、「かながわ若者就職支援センター」18.0%であった。ガールズ講座では、若者のための就労支援機関や、働き始めた後に利用できる労働関係の相談機関、職業訓練校、障がい者のための就労支援機関など、修了者が利用できるさまざまな社会資源を紹介している。当協会が「めぐカフェ」就労体験事業等で連携している「若者サポートステーション」が最も高い結果となったが、その他にも、幅広い相談・支援機関につながっていることがわかった。

「障害者手帳を取得した」は19.4%、すなわち修了者の5人に1人が障害者手帳を取得したという結果となった。修了者はガールズ講座受講時からすでに医療機関につながっている者も多く、主治医から障害者手帳の取得をすすめられていたり、取得を迷っていたりすることがある。また、就労体験等をおして自分の特性（得意なこと・苦手なこと）に気づき、相談支援機関などでの助言やサポートを得て、発達障害等の診断を受け、手帳取得につながるケースも複数出てきている。ガールズ講座では、障害者手帳を取得し、障害者枠で雇用された修了者の事例を紹介するなどしており、障害がある場合には、障害者手帳を取得することも前向きな選択肢の一つとして提示している。ガールズ講座の受講がきっかけとなり、障害者就労の道という「次の新しい世界の扉を開い」てもらったという自由記述も見られた。

## ⑤女性に特化した支援の有効性と必要性

体調について気になることがあるかどうかの設問に対して「気になることがある」と答えた 85.5%の内、3人に1人(35.5%)が「月経・生理について」について気になることと回答していた。ガールズ講座の参加者や「めぐカフェ」就労体験の実習生の中には、婦人科系の疾患を抱えていたり、疾患名はついていないものの、PMS(月経前症候群)や月経が重いなどのトラブルを抱えている人がいる場合がある。こうした婦人科系の課題は、当事者にとっては就労する上で大きなハードルとなっていることがあるが、そのような課題について、安心して相談したり、課題とつきあいながら働いていくためにはどうしたらよいかを情報提供するような支援は多くはない。ガールズ講座の中では、婦人科系の課題について話す時間を設けているが、女性特有の課題でもあり、女性に特化した支援の一つであると言えるだろう。

また、自由記述の中には「男性が苦手な自分でも参加することができた」という回答も見られた。ガールズ講座参加者の中には、過去の経験などから、男性に対する恐怖心や苦手意識を持つ人もおり、男性の参加率の高い就労支援事業には参加しづらい場合がある。全国に160か所ある地域若者サポートステーションの利用者の男女比率は7対3で女性が少なく、当協会の連携先であるよこはま若者サポートステーションの利用者も女性は34.9%(2012年度)にとどまっている。男性利用者の多い一般の若者就業支援機関は、そうした男性が苦手な女性たちには、利用しにくい面があり、女性に限定したガールズ講座や就労体験事業が有効な資源となっているといえる。

## (2) 修了者の現在の状況とこれまでの経験について

### ①現在の状況

回答者のうち、同居者がいる人は87.1%で、一人暮らしをしている人は1割程度であった。また、介護や世話をしている家族(高齢者、障がい児・者、病児・者等。別居も含む)がいると回答した人は4.8%だった。

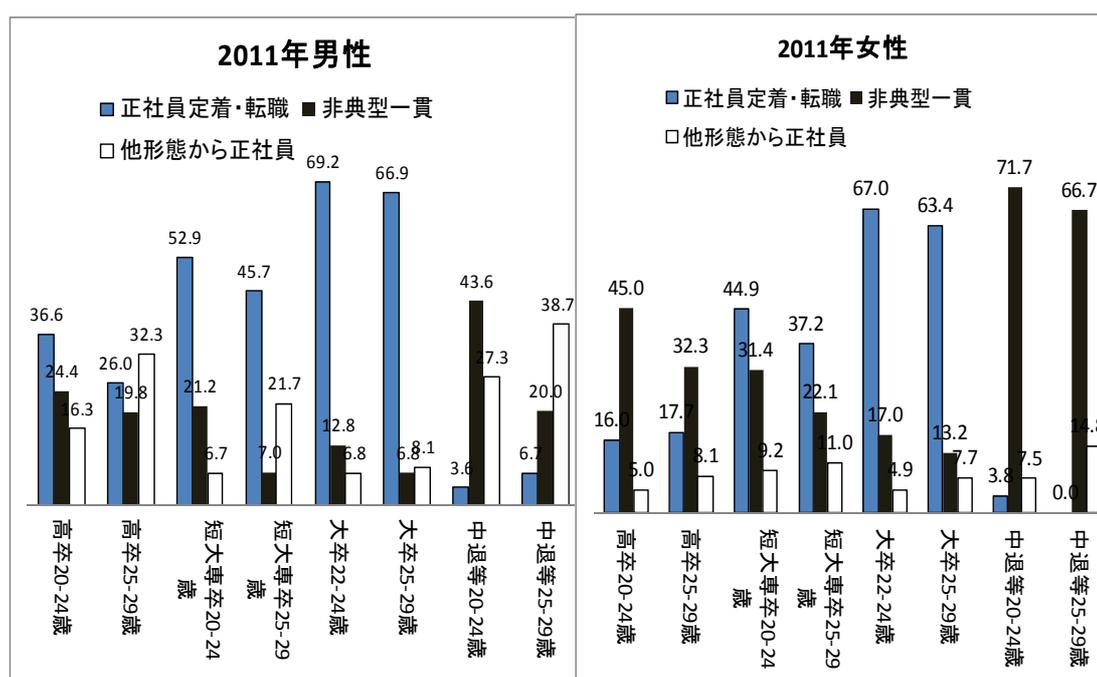
一方、これまでに家庭で経験したことについての設問では、「親・きょうだいなど家族の面倒をみなくてはいけなかった」という回答が11.3%にのぼった。受講者の中には、仕事で忙しい一人親と同居していて、食事作りをすべて担っている人や、年下のきょうだいのケアをしている人などもある。家族の一員として家事やケアを担うこと自体は問題であるとは言えないが、就労や自立を目指しているにもかかわらず、女性(娘)であるがゆえに家族の介護や家事を担わされ、仕事(や勉強)よりも優先させるように言われるケースが実際にあり、就労や自立を妨げる一因となっていることも述べておきたい。

学歴については、四年制大学卒業32.3%、短期大学卒業14.5%で、半数近くが大学卒業者である。中退者も含めると大学に進学した人は修了者の62.9%(四大43.6%、短大17.7%)

にのぼる。回答者（平均年齢 30.0 歳）が、18 歳前後であった 2000 年度の女子の大学進学率は 48.7%（四大 31.5%、短大 17.2%）であり、それと比べると、四年制大学の進学率が高いといえる。

しかし、回答者の 27.4%が、高校、専門学校、短大、四大、大学院の中退者であった。2012 年 7 月に男女共同参画センター横浜南と NPO 法人全国女性会館協議会が共催で実施した、「若い女性の自立支援のための公開講座&支援者研修」において、労策研究・研修機構統括研究員の小杉礼子氏は、学歴別の職業キャリアを比較した場合、大卒・大学院卒の正社員率（卒後、一貫して正社員）は 6 割を超え、男女差がほぼ見られないのに対して、学校中退者は高校中退でも高等教育中退であっても、一貫して非正規雇用を続けている人の割合が高く、男性に比べて女性のほうが著しくその割合が高いことを、統計に基づき指摘していた（図表 34 参照）

図表 34：年齢・学歴別職業キャリアの分布



出典：労働政策研究・研修機構『労働政策研究報告書』No.148 大都市の若者の就業行動と意識の展開「第3回 若者のワークスタイル調査」から— 30 ページより抜粋

つまり、女性のほうが、学歴の格差が職業キャリアにより大きな影響を及ぼしており、中退した女性は不安定な働き方をしている場合が多いということである。学校中退者は就労に関して学校からの支援を受けることはできず、また、中退女性に特化した就労支援事業はほぼ行われていないと言ってよい。ガールズ講座や就労体験はそうした女性たちの受け皿となっているのではないかと推測される。今後、学校中退女性のキャリア支援の充実

が必要と思われる。

体調については「気になることがある」と回答した人が 85.5%にのぼり、「体力について」「気持ちの浮き沈み、メンタル面での不調」がともに 67.9%と高い。しかし、過去 2 年間に健康診断を受けていない者は 56.5%と半数を超え、そのうち 5 年以上を受けていない人は 60%にもものぼった。健康診断を受けていない理由としては「受ける機会がないから」が 77.1%と高い。学校や職場に所属している場合は定期的に健康診断を受ける機会があるが、そのどちらにも所属せず、家にひきこもりがちな女性が健康診断を受けることが少ないというのは、当然と言えば当然である。しかし、4 人に 1 人が体調面では「あまりよくない」「悪い」と答えており、就業する上でも健康面での課題は非常に大きい。今後、若年者の健康課題についての支援も必要と思われる。

## ②これまでの経験

ガールズ講座や就労体験に参加する以前に、学校や家庭で経験したことについて、2012 年度に横浜市が実施した「横浜市子ども・若者実態調査」（以下、市調査）での設問項目と回答項目を一部同じものにして調査を行い、比較を行った。

学校での経験については、「友達とよく話した」が本調査では 54.8%だが、市調査では 90.1%であり、大きく差が出ている。また、市調査では「友達にいじめられた」が 25.7%であるのに対して、「クラスメイトなどからいじめられた」48.4%と、2 倍近い結果となった。ほかにも、市調査で「不登校を経験した」6.3%に対して、「1 年間に 1 ヶ月以上不登校だった」が 35.5%と 5 倍以上の開きがあり、「学校の勉強についていけなかった」は 30.6%で、市調査の 15.9%のほぼ 2 倍であった。これらの結果から、ガールズ講座や就労体験の修了者は学齢期から、いじめや不登校などの困難を抱えていたということが言える。

家庭での経験としては、「家からほとんど出ない状態が半年以上続いた」が 45.2%と、半数近くがひきこもりの状態を経験している。これは市調査では 1.9%となっており、20 倍以上の開きがある。また、「親がいろいろなことに干渉してきた」も 43.5%と高く、市調査の「親が過干渉であった」6.1%と比べても非常に高い。ほかにも、「親や兄弟などから暴力・虐待を受けた」17.7%に対して市調査の「親から虐待を受けた」1.7%、「経済的に苦しい生活を送った」16.1%に対して市調査 6.1%、というように、困難な状況については、市調査よりも高い結果となった。本調査では出身家庭の社会階層を知る手がかりとして、一人部屋の有無についても尋ねたが、その結果、「自分の一人部屋があった」と回答した者は 64.5%であった。しかし、一人部屋の所有率については、参照できる統計データを見つけることができなかった。

### (3) 今後の支援のあり方について

#### ①継続的支援の必要性

最後に、本調査結果から導き出される、若年無業女性に対する支援のあり方について述べたい。「現在、収入のある仕事や活動をしている」人は46.8%と半数近くであったが、「していない」という回答も46.8%と同率であった。また、ガールズ講座や就労体験修了後に収入のある仕事や活動をしたかという設問にたいして「していない」という回答も29.0%あった。「ひきこもりに戻ってしまった」「今もどうしていいかわからない」といった自由記述も複数見られ、講座や就労体験修了後に、実際に就職活動をするところまでたどりつけない、あるいは就職活動にチャレンジをしたもののうまくいかず、再びひきこもりがちになってしまった修了者が少なくないことがわかった。こうした次のステップに進めないでいる修了者たちを対象とした支援として、新たな講座の開講、あるいはガールズ講座の複数回受講を可能にしてほしいといった意見もあった。「講座の後の別機関への橋渡しやサポートが必要」という意見もあり、今後、ガールズ講座では、単に社会資源の情報提供だけにとどめず、個々の受講者の状況に合わせた相談・支援機関への紹介をしたり、男女共同参画センター内の相談室の利用につなげていったりする必要がある。また、「現在、収入のある仕事や活動をしている」と回答した修了者についても、その多くは非正規雇用であり、さまざまな困難や課題を抱えつつ働いていることが推測される。継続して働き続けられるよう、フォローアップの支援も検討していかなければならない。

新たな支援事業の展開を考えるため、どのような相談や場だったら利用してみたいかという設問に対しては、「からだや心がつらくなったときに話を聞いてもらえる“保健室のような場”」61.3%、「ガールズ（15～39歳のシングル女性）対象の“個別面接相談”」54.8%という結果となった。それ以外の回答項目についても利用してみたいという回答が一定程度あった一方で、金銭面や体調面等の理由で相談の「場」に行くことが難しいため、電話やメールでの相談ができるといいといった意見も、自由記述で複数見られた。男女共同参画センター横浜で実施している「心とからだと生き方の電話相談」や面接相談では、修了者からの相談がほとんどないのが現状であるが、話を聞いてもらいたい、相談したいというニーズがないわけではなく、対象を限定し、金銭面・体調面での負担が少ない形での、たとえばフリーダイヤルやメールでの相談についてはニーズがあると思われる。ガールズ講座のようなグループ型の支援を継続しつつ、その後の支援としては、より個別的な対応が求められていると言える。

#### ②修了者同士のゆるやかなつながりの支援

アンケート調査の最後で「こんなサポートがあったらうれしい」ということを自由に記述してもらったところ、「同じ立場にあるガールズ同士の交流がもっとさかんに出来ればいい」、修了者が集まって話し合える「フリートークの場を紹介してくれたらうれしい」、「ガ

ールズ限定のSNSなどがあつたら」といった意見が複数見られた。同じような立場の人と知り合えたが、講座や就労体験修了後は関係が続かなかつたという人もおり、修了者同士がその後もゆるやかにつながれる場を求める声が多い。また、「同期の方々がどうしているか知る機会があつたらうれしい」、「(うまく行かない状況から) 抜け出せた方法、きっかけなどがあれば聞いたり話し合ったりしたい」なども意見もあり、ほかの修了者がどのようにしているのかを知りたい、話したいという意見も複数あつた。男女共同参画センター横浜では、ガールズ講座修了者が、その後も孤立せず安心して自分のことが話せたり、ほかの人の体験を聞いたりできる場として「いちごの会」という名前のサポートグループを年に3~4回実施しているが、毎回の参加者は8人程度にとどまっている。修了者の関心事に即したテーマ設定にするなど、開催方法を工夫し、修了者同士がゆるやかにつながれる場の支援が必要と思われる。

また、かねてよりガールズ講座では、事前説明会や11回の本講座の中で、「修了者の体験談」としてこれまでの経験や講座修了後にした活動・仕事などについて話してもらう時間を設けており、受講生たちにも好評である。当事者による語りは、それを聞く受講生にとって励みとなつたり、新たな気づきをもたらしたりするだけでなく、体験談を話す当事者にとっても、自分の経験を振り返り、整理する機会ともなっている。自分にとってどんな社会資源が役立つのか(あるいは役立たなかつたのか)、修了後の活動はどのようなことをしたのかなど、複数の修了者がそれぞれの多様な経験と知恵を語るトークイベントや、あるいはそれをもとに事例集を作成することも考えられるだろう。

以上のように、修了者同士がゆるやかにつながる場づくりの支援を継続して実施すること、そしてその場を、地域で多様な活動を行う市民らの力を借りて開かれたものにしていくことも大切だ。それらを通してさまざまな人や場に出会う機会を提供することが、今後も彼女たちの役に立つであろう。

いっぽうで、私たち(公財)横浜市男女共同参画推進協会は、このような若年無業女性の問題について、このような調査で明らかになった事実、あるいは現場で聴き取った当事者の声等を社会に発信し、社会の問題として働きかけていく必要があると考える。若年者の就労環境の厳しさについては認知が広がりつつあるものの、女性に著しい非正規雇用率の高さといった格差、職業よりも家族の介護などのケアを優先させられる女性役割等、女性であるがゆえの困難、働きづらさ等はいまだ理解されていない。ガールズ講座を受講する女性たちの抱える困難は、個人的な課題として片付けられるものではなく、いまだジェンダー格差の大きい日本社会のありようを示しているともいえるのではないか。

今後も、若年無業女性の就労・自立に向けた支援に取り組みつつ、見えづらい課題を明らかにし、構造的・社会的な問題として発信していきたいと考える。

## ガールズ講座&「めぐカフェ」就労体験 修了者アンケート調査

(公財)横浜市男女共同参画推進協会では、2009年より、働きづらさを抱える若いシングル女性(ガールズ)を対象に、講座や就労体験等の事業を実施してきました。

今年度、ガールズ支援事業を開始して5年目を迎えるにあたって、これまでの協会のガールズ支援事業の取組について振り返りを行うため、男女共同参画センター横浜・横浜南において実施した「ガールズ編(パソコン&)しごと準備講座」の修了者と、「めぐカフェ」就労体験の修了者の方を対象に、これまでの経験やガールズ講座・「めぐカフェ」就労体験に参加した後の変化や行動等について、調査を実施することにしました。

修了者の皆さんが、その後どのような状況でいらっしゃるのかを知り、また、役立つ支援のあり方、事業の改善点などについて考えることは、現在同じ状況にあるガールズたちの支援にとっても、重要になってくると考えています。つきましては、大変お手数ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力いただければ幸いです。

☆あなたのお名前やご住所を書いていただく必要はありません。

☆アンケートの結果はすべてコンピュータ処理を行い、統計的な集計・分析をします。

☆ご回答の内容はもちろん、回答後にさらに直接インタビューに協力いただける方のみ、お名前、電話番号、メールアドレスをお書きいただくようになっていますが、これらの個人情報外部にもれることは一切ありません。

☆ご返送いただいた調査用紙は、終了後に当協会が責任をもって処分いたします。

### ★調査用紙の返送について

ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒(切手は不要です)にて  
**9月20日(金)までに** 投函してください。

### ★ご不明な点がありましたら、下記までお問合せください。

【調査主体】公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会 事業企画課

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

電話：045-862-5141 FAX：045-862-3101

Eメール：kikaku@women.city.yokohama.jp 担当：植野(うえの)

## 1 ご自身やご家族の状況について

Q1 ガールズ支援事業のうち、どの事業に参加しましたか。(〇はひとつだけ)

	①ガールズ講座(のみ)を受講した
	②ガールズ講座と「めぐカフェ」就労体験に参加した
	③「めぐカフェ」就労体験のみ参加した

⇒①、②の方は Q2 へ

⇒③の方は Q3 へ

Q2 ガールズ講座を受講した時、何歳でしたか。

\_\_\_\_\_ 歳

Q3 いま、何歳でいらっしゃいますか。(2013年8月1日現在)

\_\_\_\_\_ 歳

Q4 同居している人は何人ですか。(〇はひとつだけ)

	①同居している人はいない
	②同居している人がいる ⇒あなたを入れて何人ですか(      人)

⇒①の方は Q6 へ

⇒②の方は Q5 へ

Q5 現在、同居している方はどなたですか。(〇はいくつでも)

①父		②母
③きょうだい(      人)		④祖父
⑤祖母		⑥恋人
⑦夫		⑧自分の子ども
⑨友人		⑩その他(      )

Q6 現在、あなたが介護や世話をしている高齢者、障がい児・者、病児・者等が(同居・別居を問わず)ご家族等にいらっしゃいますか?(〇はひとつだけ)

①いる	②いない
-----	------

Q7 最終学歴をおたずねします。(〇はひとつだけ)

①中学 卒業	②高校 在学中
③高校 中退	④高校 卒業
⑤専門(各種)学校 在学中	⑥専門(各種)学校 中退
⑦専門(各種)学校 卒業	⑧短大 在学中
⑨短大 中退	⑩短大 卒業
⑪四年制大学 在学中	⑫四年制大学 中退
⑬四年制大学 卒業	⑭大学院 在学中
⑮大学院 中退	⑯大学院 修了

※休学中の人は「在学中」を選んでください。

Q8 健康状態についてうかがいます。現在、体調はいかがですか。(〇はひとつだけ)

①大変よい	②まあまあよい
③あまりよくない	④悪い

Q9 体調について気になることはありますか。(〇はひとつだけ)

①気になることはない	②気になることがある
------------	------------

⇒①に〇をつけた方は Q11 へ

⇒②に〇をつけた方は Q10 へ

Q10 気になることは、どんなことですか？(〇はいくつでも)

①睡眠について (寝付けない、夜中や朝に目が覚める等)
②食事について (食べられない、過食、食べ吐き等)
③頭痛やめまい
④胃腸について (胃腸炎、便秘や下痢等)
⑤月経・生理について (生理不順、生理痛がひどい、PMS等)
⑥肩こり・腰痛について
⑦体力について (疲れやすい、体力がない等)
⑧持病(からだ)について



⑤クラスの中でいじめがあった	⑥クラスメイトなどからいじめられた
⑦学級崩壊が起きていた	⑧学校の勉強についていけなかった
⑨信頼できる先生がいた	⑩先生は自分の気持ちをわかってくれなかった
⑪部活動に参加した	⑫あてはまるものはない

Q15 あなたはこれまでに、家庭で次のような経験をしたことがありますか。(〇はいくつでも)

①親とはなんでも話すことができた	②親はしつけが厳しかった
③親は学校の成績を重視していた	④親とぶつかることが多かった
⑤親がいろいろなことに干渉してきた	⑥親にあまり面倒を見てもらえなかった
⑦親・きょうだいなど家族の面倒を見なくてはいけなかった	⑧家にいても気が休まることがなかった
⑨両親の仲が悪かった	⑩両親が離婚した
⑪親と死別した	⑫経済的に苦しい生活を送った
⑬自分の一人部屋があった	⑭両親の間で暴力があった
⑮親・きょうだいなど家族から暴力・虐待を受けた	⑯家族に相談しても、あまり役に立たなかった
⑰家からほとんど出ない状態が半年以上続いた。	⑱あてはまるものはない

Q16 就労をしたことがある方に伺います。あなたはこれまでに、仕事で困った経験をしたことがありますか。(〇はいくつでも)

①人間関係がうまくいかなかった	②同僚からいじめられた
③セクシュアル・ハラスメントを受けた	④パワー・ハラスメントを受けた
⑤仕事を教えてもらえなかった	⑥給料を払ってもらえなかった
⑦解雇された	⑧その他( )
⑨あてはまるものはない	

### 3 ガールズ講座・「めぐカフェ」就労体験に参加したあとの変化

Q17 ガールズ講座に参加した方に伺います。ガールズ講座は現在からみて、どのような点で役立ちましたか。(もっともあてはまるもの3つまで○をつけてください)

※ガールズ講座を受講していない方は答えなくてOKです。

	①いろいろな状況にある人と接して、ものの見方や考え方が広がった
	②同じ立場の人と知り合い、話すことが励みとなった
	③客観的に自分を見つめ、適性や得意なこと知ることができた
	④自分に自信がついた
	⑤いろいろな相談場所や支援機関を知ることができた
	⑥朝起きられるようになるなど、生活リズムが整った
	⑦体調管理やセルフケアの方法を知ることができた。
	⑧対人関係が以前より楽になった
	⑨自立や就労に向けて一歩踏み出すきっかけとなった
	⑩あてはまるものはない

★その他、役立ったことやご自身の変化について、特に気づいたことがあれば、自由にお書きください。

( )

Q18 「パソコン講座」(ガールズ編 1～6期)に参加した方に伺います。「パソコン講座」は、どのような点で役に立ちましたか。(○はいくつでも)

※パソコン講座を受講していない人は答えなくてOKです。

	①パソコンに対する苦手意識が薄れた
	②便利な機能や、知らなかったテクニックを知ることができた
	③パソコンスキルが身に付き、自分に自信がついた
	④ブログやSNSなどを始めるきっかけとなった
	⑤パソコンスキルが必要な職種に応募できるようになるなど、職種の幅が広がった
	⑥パソコンを使う仕事につき、教わったことが活かされた

	⑦あてはまるものはない
--	-------------

★その他、役立ったことやご自身の変化について、特に気づいたことがあれば、自由にお書きください。

Q19 「めぐカフェ」就労体験に参加した方に伺います。「めぐカフェ」就労体験には、どこまで参加しましたか。(〇はひとつだけ)

※「めぐカフェ」就労体験に参加していない人は答えなくてOKです。

	①カフェ立ち上げ時の研修に参加した
	②カフェ立ち上げ時のスタッフになった
	③STEP1（無給・10日間）まで参加した
	④STEP2（手当付き・20日間）まで参加した
	⑤STEP2を経て、アルバイト契約になった
	⑥STEP1、STEP2の途中で参加をやめた

Q20 「めぐカフェ」就労体験に参加した方に伺います。就労体験は現在からみて、どのような点で役立ちましたか。(もっともあてはまるもの3つまで〇をつけてください) ※「めぐカフェ」就労体験に参加していない人は答えなくてOKです。

	①体調管理をして、決められた日時に通うことに慣れた
	②働く者として、身だしなみを整えることができた
	③声を出したり、応答したりする練習になった
	④ほかの人とチームで動く練習になった
	⑤知らないお客さんと接する練習になった
	⑥カフェ業務への向き・不向きを知ることができた
	⑦働くことへの不安・恐怖心が軽くなった
	⑧自分に自信がついた
	⑨次の就労に向けて一歩踏み出すきっかけとなった
	⑩あてはまるものはない

★その他、役立ったことやご自身の変化について、特に気づいたことがあれば、自由にお書きください。

( )

#### 4 ガールズ講座・「めぐカフェ」就労体験に参加したあとの行動・活動について

Q21 ガールズ講座や「めぐカフェ」就労体験の修了後にしたことはなんですか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。その中で、あなたにとって、特に役立ったもの・して良かったことに、3つまで◎をつけてください。

	①相談機関や支援機関に行って相談をした（以前から通っていた人も含む） ⇒○がついた人はQ22
	②就労関連のセミナーやイベントに参加した
	③ハローワークに行った
	④「めぐカフェ」以外の就労体験に参加した
	⑤職業訓練（校）に通った
	⑥専門学校、大学等に進学した
	⑦求人に応募した
	⑧心身の体調を整えるため、医療機関やカウンセリングに通った
	⑨自助グループに行った
	⑩スポーツジムやフィットネス教室などに通った
	⑪市民活動やボランティアに参加した
	⑫作業所や病院のデイケアなどへ通所した
	⑬障害者手帳を取得した
	⑭障害年金を受給した
	⑮あてはまるものはない

★その他、講座や就労体験の修了後にした行動・活動で、特に役立ったことなど書きたいことがあればお書きください

( )

Q22 Q21で①に〇(◎)がついた方に伺います。どのような機関に相談しましたか。  
(〇はいくつでも)

①若者サポートステーション	②青少年相談センター
③地域ユースプラザ	④かながわ若者就職支援センター
⑤ハローワーク	⑥発達障害者支援センター
⑦障害者就労支援センター	⑧精神保健福祉センター (こころの健康相談センター)
⑨区役所・福祉保健センター	⑩その他の機関 ( )

Q23 ガールズ講座(「めぐカフェ」就労体験)修了後からこれまでに、一度でも収入のある仕事や活動をしましたか。(〇はひとつだけ)

①した	②していない
-----	--------

⇒①に〇をつけた方は Q24 へ

⇒②に〇をつけた方は Q25 へ

Q24 講座修了後からこれまでに経験した仕事について、内容や期間、雇用形態についてお聞きします。

仕事の内容 (喫茶ホール、軽作業、一般事務 など具体的に)	期 間(a b cのどれかに ご記入下さい)			雇 用 形 態 (〇をつけてください)
	a	b	c	
①	日	か月	年 か月	アルバイト・派遣・契約社員・正社員・フリーランス(個人事業)・障害者雇用・その他
②	日	か月	年 か月	アルバイト・派遣・契約社員・正社員・フリーランス(個人事業)・障害者雇用・その他
③	日	か月	年 か月	アルバイト・派遣・契約社員・正社員・フリーランス(個人事業)・障害者雇用・その他
④	日	か月	年 か月	アルバイト・派遣・契約社員・正社員・フリーランス(個人事業)・障害者雇用・その他
⑤	日	か月	年 か月	アルバイト・派遣・契約社員・正社員・フリーランス(個人事業)・障害者雇用・その他

Q25 現在、収入のある仕事や活動をしていますか。あるいは、これから働く予定が決まっていますか。(〇はひとつだけ)。

①している。	②していない	③働く予定が決まっている
--------	--------	--------------

⇒①、③に〇をつけた方は Q26 へ

⇒②に〇をつけた方は Q28 へ

Q26 その仕事はどのように見つけましたか。(〇はひとつだけ)

①求人情報紙（誌）	②新聞広告・折込チラシ
③ハローワーク	④インターネット（求人サイト等）
⑤掲示・張り紙などを見て	⑥就労体験先からの紹介
⑦人づて	⑧みずから起業
⑨その他（具体的に _____ ）	

Q27 現在ついている仕事・活動の条件についてうかがいます。複数の仕事をもつ方は、それぞれについてご記入ください。

①1日の働く時間（平均）	休憩を除き	時間	分
②1週間の働く日数	週	日	
③片道の通勤時間数（平均）		時間	分
④交通費の有無	<input type="checkbox"/> 全額支給される	<input type="checkbox"/> 一部支給される	<input type="checkbox"/> 支給されない

①1日の働く時間（平均）	休憩を除き	時間	分
②1週間の働く日数	週	日	
③片道の通勤時間数（平均）		時間	分
④交通費の有無	<input type="checkbox"/> 全額支給される	<input type="checkbox"/> 一部支給される	<input type="checkbox"/> 支給されない

## 5 相談や支援について

Q28 困っていることや悩みごとがあるとき、だれに相談したり、話したりしていますか。  
(〇はいくつでも)

①親	②きょうだい
③友人・知人	④交際相手
⑤職場の同僚	⑥カウンセラー・精神科医
⑦行政などの専門機関の人	⑧NPO など民間の相談機関の人
⑨ネット上の知り合い	⑩ネット上の質問サイト
⑪その他（ _____ ）	⑫誰にも相談しない

Q29 困っていることや悩みごとについて話したり考えたりしたいとき、どのような相談  
や場だったら、利用してみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

	①ガールズ(15~39歳のシングル女性)対象の“個別面接相談”
	②ガールズ(15~39歳のシングル女性)対象の“グループ相談会”
	③相談がなくても気軽に行くことができる、“女性限定のフリースペース”
	④手仕事をしたり、ご飯をいっしょに作って食べたりしながら“おしゃべりができる場”
	⑤からだや心がつらくなったときに話を聞いてもらえる“保健室のような場”
	⑥生きづらさや抱えている問題について、当事者として研究・発表したり、話し合ったりできる“当事者研究の場”

Q30 最後に、こんなサポートがあったらうれしいというようなご意見・ご要望がありま  
したら自由にお書きください。

( )

質問は以上で終了です。ご協力いただきまして、まことにありがとうございました。

**※本調査は、原則「無記名」です。**

★このアンケート調査でお聞きできなかったことについて、フォーラムの職員が、個別にもしくは  
グループでインタビューをすることについて、ご協力をいただけるでしょうか。

インタビューにご協力いただける方は、以下にお名前とご連絡先をご記入ください。

お名前	
電話番号	
メールアドレス	



働きづらさに悩むあなたに……

# ガールズ編(無料) しごと準備講座



「しごとがなかなか続かない」「人間関係が苦手」「働けるかどうか不安」  
「なんとか自分の力でやっていきたい」……そんなあなたをお待ちしています。  
まずは説明会におこしてください。

**説明会●4/24(水)** 10:30~12:00 定員●25人 参加費●無料

★ガールズ編しごと準備講座の講座内容、担当スタッフ等の紹介

★説明会の最後に、ご希望の方は本講座の申込書に記入・提出いただきます

**申込**●電話、HPにて先着順。電話：045-862-5141

<http://www.women.city.yokohama.jp/>

**本講座●5/27(月)~6/19(水)** 10:30~12:00

全11回(月・水・金) 定員●20人

★参加費:無料 ただし、材料費として実費負担有り(300円程度)

★講座内容：呼吸とリラックス・自分の声、アサーティブネス、リラックスヨガ、こころに効く食事と栄養、適職チェック、働くときに最低限知っておきたい法律と相談先、先輩の体験談、自分を好きになるメイク講座、履歴書の書き方、目標を語る交流会 等

★開催日：2013年5月27,29,31日、6月3,5,7,10,12,14,17,19日 ※6/14は午後開催

☆働きづらさに悩む「ガールズ」応援サイト ⇒ <http://girls-support.info/>

**会場●フォーラム(男女共同参画センター横浜)**

交通：JR・市営地下鉄戸塚駅西口より歩いて5分

住所：横浜市戸塚区上倉田町 435-1

メイク講座協力●(株)イオンフォレスト(ザ・ボディショップ)

**対象・定員●15歳から39歳までのシングル女性20人**

(シングルマザーの方は対象外です。また、大学・短大等に通学中の方は、原則として対象外です。)

**本講座申込み●申込書**(説明会にて配布、ダウンロードもできます)に

ご記入の上、来館か郵送で提出ください。

4/24~5/8(必着)。応募多数の場合は抽選。

【送り先】〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町 435-1 フォーラム事業企画課あて

**問合せ●電話：045-862-5141(事業企画課)** メール:kikaku@women.city.yokohama.jp

**主催●フォーラム(男女共同参画センター横浜)**



●フォーラムは、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会が管理運営する男女共同参画センター3館のうちの1つです。  
●メールマガジンで講座・イベント情報をお届けしています。登録は協会のHPまたはQRコード(右)から。

